創立50周年記念　年　輪



山梨県バドミントン協会

創立50周年記念　年　輪



山梨県バドミントン協会

あ　い　さ　つ



山梨県バドミントン協会
会長　原　　二三雄

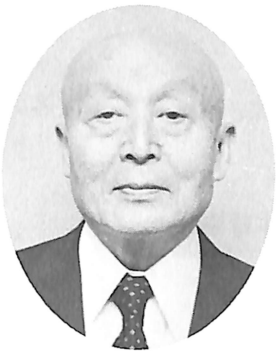
山梨県バドミントン協会が昭和23年に創立されはや50年という歳月が過ぎました。ここまで御指導いただいた諸先輩の皆様、そして陰日向となり協会を支えてこられた関係各位の熱意と御協力に対し深く敬意を表し、感謝の意を表す次第であります。

昭和22年の春、バドミントンが本県に導入され、青空に飛びかう白鳥の動きにも似た羽根の球に魅せられた若者がバドミントン活動に入りました。秋には、山梨県バドミントン協会が設立され、前年度創立された日本バドミントン協会に北海道、東京、神奈川、大阪、岐阜の５都道府県とともに加盟しました。熱意ある先駆的指導者のもと、バドミントン競技の普及、発展と協会役員間の融和が図られ、当協会発足三年目の昭和24年には全国的水準に到達しました。

このようななかで、各種大会の中で、高校生をはじめ成年のめざましい活躍がありました。昭和43年の第23回国民体育大会から45年にかけて一般男子は、国体３連覇を成し遂げることができました。関係者の御協力により、全日本チャンピオンズ招待試合、全日本社会人大会、日中・日韓等の国際大会などをとおして財政・選手育成を図ることもできました。そして、昭和61年本県で開催された第41回国民体育大会においては、開催地勝沼町の御協力により、成年男子の優勝をはじめ国体史上まれな４種別入賞という成績で種目別、総合優勝を飾ることができました。

おかげさまで、現在では小学生、中学生、高校生さらに一般社会人と多くのバドミントン愛好者がおりますが、今後克服しなければならない問題も多くあります。50周年の節目にあたり山梨県バドミントン協会役員一同心を新たにして、競技力の向上、さらに組織の強化を図り、次代にそなえた対応を積極的に進め鋭意努力をしていく所存であります。関係各位のなお一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、挨拶といたします。

祝　　辞



財団法人日本バドミントン協会
会長　桜内義雄

このたび、山梨県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたことは、日本バドミントン界にとって、大変喜ばしい限りであります。

貴会が、半世紀の永きにわたり、バドミントン競技の競技力向上および、普及発展に精進され、今日の成果を挙げられましたことに心から敬意を表し、貴会員一同の喜びも一入であろうと御推察申し上げます。

貴会は、昭和23年３月に全国に先がけて創立されました。以来今日まで、会員一同が一体となり、幾多の困難と障害を乗り越え、日本を代表する選手を多数輩出し、国内の各種大会はもとより、国際大会でも輝かしい成績を収められました。また、大会誘致にも積極的に取り組み「かいじ国体」はじめ、近くは「全国高校総体」の成功など、記憶に新しいところであり、名実ともに全国的にも有数の協会に成長されました。これもひとえに、創立から今日まで営々としてバドミントン競技に限りない情熱を傾けられました役員及び会員のみなさま方のご努力の賜と深く敬意を表すところであります。

申すまでもなく、日本バドミントン協会の発展は、都道府県バドミントン協会の充実がその礎となっており、その意味からも、貴協会の今日までの輝かしい50年の歴史は、まことに意義深く、本会としても感謝にたえません。

この50年を、ひとつの大きな節目として、今後さらに底辺の拡大、組織の充実に努められ、バドミントン競技が21世紀の山梨の地に幅広い強固な根を張り、貴会が日本のバドミントン界のリーダー的存在として、ますます発展されますことを衷心よりご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



祝　　辞

(財) 山梨県体育協会
会長　天野　建

このたび、山梨県バドミントン協会が設立50周年を期して「山梨県バドミントン協会50周年記念誌」発刊の運びとなりましたことは、バドミントン協会の輝かしい歴史と諸先輩の偉業を綴る貴重な記録として後世に残る誠に有意義なことであり、心からお慶び申し上げます。

顧みますと、貴協会は戦後の混乱期である昭和22年、日本バドミントン協会による競技普及以来、昭和23年３月「山梨県バドミントン協会」を設立され、昭和24年６月には山梨県体育協会加盟に至っております。

山梨県のバドミントン界は、多彩な行事を通じ多数の愛好者を生み普及・発展すると同時に、昭和24年には競技水準も急速に成長し、全国レベルに躍進すると同時に日本バドミントン界においても、数多くの本県出身者がトッププレーヤーとして、輝かしい足跡を残されてきました。

特に、昭和43年の第23回国民体育大会から45年にかけて一般男子は、国体３連覇を成し遂げ、また、昭和61年本県で開催された第41回国民体育大会においては、成年男子の優勝をはじめ国体史上まれな４種別入賞という輝かしい成績で種目別、総合優勝を飾るなど幾多の成績を収めてまいりました。

スポーツは、健康で体力の増強を図るとともに、潤いのある人生を築く上で重要な役割を果たしております。人々が集い新しい仲間をつくり、スポーツコミュニティーを形成し、さらには国際親善を図るなど、豊かな社会の形成に寄与する文化の一つとしても、重要な位置を占めております。

まもなく、21世紀を迎えようとしており、国内外において変化の激しい時代の中にあって新しい世紀に明るい展望を開き、個性豊かで活力のある地域社会を構築していかなければなりません。

本会といたしましても、「やまなしスポーツプラン」との整合を図る中で、長期的な展望や施策を総合的に明かにした「山梨県体育協会スポーツ振興基本計画」を策定し、地域スポーツ、競技スポーツの振興の指針として大いに活用されますことを期待している次第であります。

おわりに、今回発刊されます「山梨県バドミントン協会50周年誌」が広く活用され、また21世紀に向けて限りない飛躍を目指すことを念願するとともに、執筆に携われ関係者の方々に心から感謝申し上げ、発刊に寄せるお祝いの言葉といたします。

目　　次

あいさつ　　山梨県バドミントン協会会長　　原　二三雄

祝　　辞　　財団法人日本バドミントン協会会長　　桜内　義雄

財団法人山梨県体育協会会長　　天野　建

第1章　山梨県バドミントン協会のあゆみ …… 1

第2章　寄　稿　文

山梨県バドミントン界草創期の裏ばなし

山梨県バドミントン協会副会長　　松野　民雄 …… 19

バドミントンがすべての学生時代

山梨県バドミントン協会理事長　　秋山　真男 …… 22

国体3連覇の思い出

山梨県バドミントン協会副理事長　　窪田　恵三 …… 24

感動の平八総体

山梨県バドミントン協会副理事長　　保坂　和也 …… 26

思　い　出

山梨県バドミントン協会副会長　　秋山文太郎 …… 28

県高体連バドミントン専門部の運営に携わっていた頃のこと

元県高体連バドミントン専門委員長　　樋口　俊夫 …… 30

バドミントンとの出会いから二十六年

山梨県バドミントン協会競技委員長　　白倉　一民 …… 32

「かいじ国体を振り返って」

かいじ国体少年男子監督　　金子　寛 …… 36

選手強化

県高体連バドミントン専門委員長

かいじ国体少年女子監督　　滝川　修 …… 36

50年の思い出
小野　勝正 …… 37
バドミントンの草分け時代
藤井　　洋 …… 38
私の生涯スポーツ
樋口弓利子 …… 39
オリンピックに出場して
ＮＴＴ東京監督　松野　修二 …… 40

第３章　栄光の記録
栄光の記録 …… 45
山梨県総合バドミントン選手権大会の記録 …… 50
山梨県社会人リーグ戦の記録 …… 56
山梨県高等学校総合体育大会成績一覧 …… 58
関東高校バドミントン大会出場校一覧 …… 59

第４章　山梨県バドミントン協会を支える人々及び団体
協会役員 …… 63
高体連・小中体連加盟学校名 …… 64
社会人リーグ登録チーム …… 65

第５章　山梨県バドミントン協会規約 …… 69
山梨県バドミントン協会事務局規定 …… 71
山梨県バドミントン協会専門部に関する規定 …… 71
山梨県バドミントン協会表彰規定 …… 72

第１章

山梨県バドミントン協会のあゆみ

山梨県バドミントン協会のあゆみ

インドのボンベイ州プーナ(Poona)で発生したこのゲームは、駐在の英国士官によって1873年ごろ英国に伝わり、グロースター州(Gloucester Shire)のバドミントン村で本格的な競技となった。バドミントンという名称はその地名をとって名付けられたものである。

日本では、昭和５年(1932)ごろ、横浜や神戸等の外国人と密接な地域でプレーが行われるようになった。昭和10年ごろには、横浜YMCA体育部が中心でクラブがつくられ、外人クラブとの対戦が記録されている。昭和14年(1939)から大学生のプレーヤーが生まれ、昭和17年(1942)には慶應義塾大学で初めての学生のみのバドミントン部が生まれた。日本バドミントン協会(略称NBA)は昭和21年(1946)に創設され、昭和23年(1946)には日本体育協会に加盟した。財団法人山梨県体育協会史第１巻(昭和43年発行)、第２巻(平成元年)に基づき、山梨県バドミントン協会のあゆみおってみた。

１　鈴木幾蔵会長時代

(昭和22年～26年)

昭和22年(1947)の春、原一造(初代理事長)のあっせんにより、NBAの宮沢宏之氏(初代NBA理事長)が岡淳一(第１回全日本選手権者)を帯同しバドミントン競技普及のため来甲、バドミントンが本県に導入された。原二三雄、清水正、長坂祥之助等がこの講習会に参加し、青空に飛びかう白鳥の動きにも似た羽根の球に魅せられ、バドミントン活動に入った。秋には、上記各氏が中心となり、「山梨県バドミントン協会」を設立、会長に鈴木幾蔵氏(当時松林軒専務)、理事長に原一蔵を選出して、前年度創立された日本バドミントン協会に北海道、東京、神奈川、大阪、岐阜の５都道府県とともに加盟した。

(1)　揺らん時代

県内にも次第にバドミントン熱が高まり、甲府第一高等学校(当時甲府中学)や甲府にクラブが結成された。当時は、終戦後の物資不足で、練習をしたくともシャトル(羽根)も品不足で品質も悪く４時間の練習に２人で１ダースも使用してしまうので、練習用に白毛糸を10cmぐらいに切った物を中心の鋼鉄線で結び止めて、ゴルフ球位の白球を考え出し練習をした。

昭和23年には、山梨大学、甲府工業高等学校にも部が生まれ、３月、山梨県体育協会に加盟、４月に東京都で開催された第１回全日本バドミントン選手権大会に山梨県より８名の選手が参加した。秋の第１回山梨県体育祭には愛知県チームを招待して行い男子複に原二三雄・小川守正(甲府クラブ)単に清水正(甲府クラブ)が優勝した。この大会が後の中部日本選手権大会の誕生となり、第１回大会となった。

また神奈川県と定期戦が結ばれ第１回大会を、甲府市で開催した。この年12月NBAが正式に日本体育協会に加盟した。

鈴木幾蔵会長、原一蔵理事長のコンビは、原二三雄、松野民雄、山田栄造、橘田登等先駆的指導者とともにバドミントン競技の普及、発展と協会役員間の融和を図り、山梨県バドミントン協会を発足三年目の昭和

24年には全国的水準に到達させている。前年までは、社会人クラブの９つと学校では山梨大学、甲府一高、甲府工業高校に部があるのみであったが、昭和24年になると郵便局、県庁、甲府市役所、勧銀甲府支店などの社会人クラブと甲府二高、英和高校、湯田高校にも部があいついで結成され郡部へも普及浸透して行き、県下選手権大会、新人大会など多彩な行事を通じて会社に工場に、また家庭に多数の愛好者を生み、大会も今までのレクリエーション的気分から脱して他の種目スポーツに比肩し得る至った。他方、対外試合からも目ざましい躍進の跡が記録されている。前年の第１回全日本選手権大会には、本県から８名の選手が参加したが、試合不慣れと練習の日がまだ浅いためいずれも１・２回戦で敗退したのに比べ、24年４月に横浜市で開かれた第２回全日本選手権大会では、男子単に原二三雄、同複に山田栄造・長坂祥之助組がいずれも準々決勝戦に進出するという好成績を示している。

また、10月16日に東京都と対抗戦を行い18対18で引き分け、全国第２位の東京都比肩する段階にまで成長した。秋にはバドミントン競技が東京都で開催された第４回国民体育大会オープン競技として加入、本県より男女10名が参加、男子単に原二三雄、長坂祥之助、同複原二三雄・野中三郎組、長坂祥之助・山田栄造組が準々決勝戦にまで進出、快調な戦績を残した。全日本選手権、および国体での好成績を買われて25年１月22日大阪で行われた第１回全日本東西対抗戦には東軍代表選手として、本県から原二三雄、山田栄造、野中三郎、長坂祥之助、清水正らが選抜されて参加し活躍した。

このように22年発足した県バドミントン協会は揺らん時代を経て24年に入ると急速に成長し、ようやく成長期に達した。

(2)　成長時代

社会人中心に普及・発展したバドミントン競技は、その後全国の高等学校、大学、実業団等各層に取り入れられ急速にバドミントン熱は高まった。そのため25年には全国高校大会、全日本学生、実業団選手権大会が開催されるに至った。本県でも社会人にまじり塚原諒一・小野勝正(甲府工業)等が、23年より活躍しており、25年には社会人に代わって目ざましい活動を続け、後の高校男子躍進の基礎をつくった。この年全国高校体育連盟バドミントン部が設立され、第１回の全国高校選手権大会が横浜で開催され、男子は甲府工業高校、女子は甲府第二高等学校が参加した。また、国民体育大会には高校男子の種目が加わり、塚原諒一・小野勝正(甲府工業)が出場し準々決勝戦にコマを進めている。一方、女子も一般にまじり山村敬子・前島幸子(甲府二高)が参加、善戦している。26年になると、甲府商業、巨摩、山梨、甲府、日川の各高校にバドミントン部が新設され、金谷一雄(甲府工業)橘田登(甲府二高)井上修吾(湯田)の各高等学校教諭が中心になり県高校体育連盟に加入、第３回県下高校総合体育大会にバドミントン競技が正式に加えられ、男子は甲府工業、女子は甲府二高が優勝した。

2　市川規一(1952～1953)
田中潤次(1954～1958)会長時代
(昭和27年～33年)

昭和27年の第７回国民体育大会に高校女子の種目も加わり、この年より高校男女のブロック予選制が実施された。本県は甲信越ブロック予選に高校女子が長野県を破り出場権を獲得、本大会に一般男女とともに出場活躍した。28年には、第１回県下ABC級社会人対抗バドミントン選手権大会が行われ、社会人対抗大会には、古屋、武井、天野を擁した日本通運チームが第１回の選手権獲得した。30年には第１回関東高校選手権大会が群馬県桐生市で開催され、山梨県より男女22名が参加、女子単に中込美子が３位、同複に中込美子・竹下璃江組(甲府二高)が２位に入賞している。この年より全国高校選手権に個人戦が加わる。31年には第２回の関東高校大会を甲府市で行い、女子単に竹下璃江・保坂みつ江組(甲府二高)が優勝、男子単にも杉山喬(甲府商業)が２位に入賞した。

32年の関東高校大会は女子複に小宮山弓利子・水上すみ子組(甲府二高)が２位、また全国高校選手権の女子単に小宮山弓利子が４位に入賞した。

33年の第４回関東高校大会には団体戦形式に試合方法が改められ、輿石太、遠藤真男、横内和也、深沢吉次を擁して甲府商業高等学校が準優勝と各種大会に好成績を示し、関東に「山梨」ありと、全国各地のコートに高校男女の山梨勢の活躍が目立ち注目を集めた。他方、一般は県内優秀選手の県外流出に悩み高校勢の活躍に比べ、沈滞を続けた。

3　和田吉弥会長時代
(昭和34年～48年)

４代目会長として、和田吉弥(甲府市教育委員長)を迎えたことは、協会今日の発展の礎築く適切な布石となった。和田会長は財政の強化、競技者層の拡大、トッププレーヤーの育成強化、その他に比類のない才腕を発揮し、協会今日の隆盛をもたらした。

34・35年には関東高校大会に湯田高校が二年連続３位に入賞し、35年には、太田、功刀、佐藤の湯田勢が国体関東ブロック予選を勝ち抜き熊本県で開催された第15回国民体育大会に一般男子とともに出場ベスト８に進出した。

36年になると、湯田高校、甲府二高を中心に活躍を続ける高校女子とともに、甲府商業、甲府工業高校を中心に高校男子の躍進が目ざましく、６月東京都で行われた第７回関東高校選手権大会に男女８校が県内から参加し、秋山真男(米山ラケット)平田勲(保土ヶ谷化学)保坂勝昭(国民金融公庫)新津勝(甲府市役所)増尾一郎(東京転出)を擁した甲府商業高等学校が、この大会３年連続優勝をねらう緑ヶ丘高校(神奈川)を２回戦で破り、他の追随を許さず圧倒的な強さで初優勝を成しとげた。また、８月、弘前市(青森)で開かれた第12回全国高等学校バドミントン選手権大会大会に男子甲府商業、女子湯田高校が出場。甲府商業高等学校は１回戦に宮城県代表白石高等学校を５－０で破り、２回戦には北陸の雄・新潟商業高等学校と対戦した。試合は両チーム死力を尽くす激戦となり、第１ダブルスを新潟商業、第２ダブルスを甲府商業が取り、シングルス３試合に命運がかけ

られた。両校ともエース同士がポイントをあげ２対２のタイ・スコアーで最終戦の平田勲－安沢武司(現愛知トヨタ自動車)との対戦となった。強烈なスマッシュを武器にする安沢に対し、平田は早い動きで対抗、前半をリードしたが病後のため次第に動きが鈍りスタミナ不足を露見、惜しくも敗れ、新潟商業の軍門に下った。敗れたとはいえ甲府商－新潟商の激戦はこの大会を盛りあげ、今日この大会18回を数えるが、インターハイ史上最も好試合と関係者の記憶に残るものであった。

(1)　秋山(甲商)全国高校単に初優勝

個人戦でも決勝戦で秋山真男と大竹紘の、甲府商一新潟商の両校エースが対戦し、１ゲーム15－10、２ゲーム15－11のストレートで秋山が、団体戦の雪辱を果たして初優勝に輝いた。また、第16回国民体育大会関東ブロック予選会に平田勲、秋山真男(以上甲府商業)早川博(甲府工業)の高校男子チームは決勝戦で神奈川県を破り本大会出場権を獲得した。10月、秋田県で開催された第16回国体には一般男子と高校男子が参加し、高校男子が健闘３位に入賞した。37年には甲府商業高等学校が関東大会に第３位に入賞、第13回全国高校大会に準々決勝にコマを進めている。

高校生の活躍と本県出身選手の中央での活躍が契機となり、県外にある出身者と県内勢(学生と一般人)が一緒に出場出来る総合選手権大会開催の気運が高まり、田村理事長、山田栄造理事の献身的な努力によって、第１回和田杯争奪県下総合選手権大会が38年 1.月開かれた。大会には県出身者と、県内にいる学生、高校生が参加して行われたが、男子単に秋山真男、同複に遠藤真男・秋山真男組(中央大)女子単に萩原義子、同複に萩原義子・望月光枝組(湯田高校)が第１回の和田杯を獲得した。38年６月前橋市で開かれた第９回関東高校大会で女子の湯田高校は、準決勝で真岡高(栃木県)に敗れたが、３位決定戦で前橋市立女子(群馬県)を２－１で破って３位に入賞した。一方、男子の甲府商業高等学校は、遠藤和男(中大)佐藤健三(日立茨城)と田中登(甲府市役所)野田秀応(中大)の安定した試合振りで勝ち抜き２度目の優勝を果たした。

関東大会優勝に自信を得た甲府商業高校学校は鶴岡市(山形県)で開催された全国高校選手権大会に出場、団体戦で６位、個人戦で単に野田秀応が５位、複に野田秀応・田中登組が５位に入賞した。沈滞気味の社会人も38年は甲府市役所を中心に活気を帯び、６月に新潟三条市で開かれた第13回全日本実業団選手権大会に甲府市役所が参加し、男子団体で久し振りに６位に入賞、同複で遠藤真男・新津勝組が活躍、準々決勝に進出している。

また７月には、34・35年度全国高校単選手権者・岡崎恵三(神奈川・緑が丘高)が甲府市役所に就職し、低調だった一般社会人に光明をもたらせ、第18回国民体育大会では準々決勝に進出している。39年３月岐阜市で開かれた全日本総合大会に秋山真男が単に３位、岡崎恵三(甲府市役所)が５位に入賞した。10月全日本社会人大会に岡崎恵三が男子単に２位、40年１月の第14回全日本実業団大会に男子単に岡崎恵三が３位、同複に遠藤真男・岡崎恵三組(甲府市役所)が２位に入賞と好成績を残した。

一方高校界も着実なあゆみをつづけ６月千葉市での関東高校大会で甲府第二高等学

校が内藤敏子(朝日生命)山田節子(第一生命)の活躍により準優勝をなしとげている。６月の第15回実業団選手権大会では男子単に岡崎恵三、同複に遠藤真男・岡崎恵三組(甲府市役所)が２位に連続入賞し安定した記録を示した。

⑵　秋山(中大)全日本学生のタイトル独占

学生界では秋山真男(甲商・中央大学)が大活躍し全日本学生、関東学生、東日本学生大会の単複タイトルを独占し、バドミントン日本一を決定する全日本総合選手権大会にも単優勝、複も岡崎恵三とのコンビで２位と各種大会に山梨県勢が活躍した。

41年３月には日本バドミントン協会より推薦され、全英選手権大会に秋山真男が参加、個人戦の世界選手権と云われるこの大会に世界各国の強豪を破り堂々２位に入賞、日本人として初めての偉業を成しとげ日本の秋山から世界の「アキヤマ」に成長した。

５月の社会人大会には男子単に秋山真男、同複に秋山真男・岡崎恵三組が優勝。９月には第７回トマスカップ世界選手権オーストラシアゾーンに日本選手団の一員として、秋山真男が出場して優勝に貢献。ニュージランド選手権大会でも単複に優勝。マレーシア招待世界選手権大会には単複３位の好成績をおさめ、日本のバドミントンレベルを世界水準に引き上げた。

10月の第21回国民体育大会には、秋山真男・岡崎恵三・三上勇(河崎ラケット)の３選手により選手団を結成し２位に入賞した。

11月の全日本総合にも秋山真男が単複第２位、野田秀応(中央大)が単に５位に入賞している。12月には秋山真男が第５回アジア競技大会に、岡崎恵三が新興国スポーツ大会に参加、活躍した。

４　一般男子国体三連覇

昭和42年10月の第22回国体の一般男子においては、前年２位の成績を獲得しているが、岡崎恵三(甲府市役所)の不参加により遠藤真男(甲府市役所)が現役復帰して上位入賞を目指した。準々決勝戦で地元埼玉に破れてベスト８にとどまってしまった。昭和43年10月の第23回国体では、岡崎恵三の復帰と三上勇に代わり田中登(甲府市役所)エース秋山真男(秋山紙店)の３選手で臨んだ。香川、山形そして準々決勝は前年負けている埼玉を破り、準決勝は宿敵愛知と対戦した。ダブルスで岡崎・秋山組が愛知の小宮・板垣組に先手を取られたがその後立ち直り２－１で勝ち、シングルスでは秋山が一方的に勝ち決勝戦に進出した。決勝はお互いに手の内を知り尽くした神奈川と対戦。ダブルスを神奈川に取られてしまい、ダブルスで相手の機先を制する作戦だっただけに、この敗戦は痛かった。そして、第１シングルスは山梨県秋山と神奈川県小島一平とどちらもエース同士の対決となった。試合は世界のトップクラスらしい手に汗を握る見事な試合を展開し秋山が勝ち、第２シングルスの岡崎に初優勝の夢を託した。岡崎は、第１ゲームを先取し第２ゲームも13－７とリードしたところで、突然腹痛を起こしコート中央にかがみ込んでしまった。しかしベンチ・応援の本県選手団・観客の激励のアラシに応え腹痛に耐え勝った。２時間40分の熱闘に終止符をうち初優勝を獲得したのである。当時の体協会長故野口二郎氏より「岡崎君が甲府市

役所にはいった５年前、その時からこの日を待ち望んでいた。念願が達成できて喜びにたえない。」（山梨日日新聞 昭和43年10月６日）との賞賛をいただく。ここに関係者及び県バドミントン協会の夢がかなえられたのであり、バドミントン王国「山梨」の始まりでもあった。昭和44年10月の第24回国体には秋山、窪田恵三（旧姓岡崎）に、野田秀応（野田商事）の加入により戦力を充実して連覇を目指して出場した。秋山は、トマス杯争奪世界男子バドミントン選手権大会の香港戦を辞退してこの国体に賭けたのである。青森、大分、準々決勝岐阜、準決勝新潟を破り快進撃を続け、決勝は前年と同じく神奈川と対戦した。前年はダブルスを取られて苦戦したが、窪田・秋山組で相手の機先を制し今回は先手を取った。第１シングルスで野田が善戦したが、勝負は第２シングルスにもつれこんだ。しかし、秋山と神奈川の坂本聖二との実力差は大きく、とくに第２ゲームはラブゲームで秋山の楽勝により２年連続優勝を決めたのである。昭和45年10月の第25回国体は、前年と同じく窪田、秋山、野田の３選手で３連覇の夢を胸に岩手に乗り込んのである。広島、秋田、準々決勝富山、準決勝岐阜と簡単に勝ち、決勝は東京と対決した。秋山は、国体３連覇のために今回も12月のアジア大会を棄権して国体一本に絞っての出場であった。その結果、ダブルスの窪田・秋山組が東京の池田信孝・栂野尾昌一組に食い下がられたが、ファイナルゲームで勝った。第１シングルスは野田が東京都の鈴木健二に負けたが、第２シングルスでは秋山が貫禄で、全日本のトップクラスにのし上がってきた栂野尾を簡単に退けた。そして一般男子で国体３連覇の偉業を成し遂げたのである。昭和46年10月の第26回国体には、窪田、秋山と県内若手の岩下一雄（岩下美宝）のメンバーで連勝記録をさらに伸ばすことを目標に出場した。福井、岩手、準々決勝大阪、準決勝岐阜と破り、決勝は２年前に挑戦を退けた神奈川との対戦であった。山梨には秋山真男、神奈川には小島一平とシングルスにエースがいるだけに、両県ともダブルスに勝敗のポイントをおいて戦った。山梨は窪田・秋山組、神奈川は小島一平・宮川秀樹組である。第１ゲーム神奈川、第２ゲーム山梨が取りファイナルゲームも11－11の大接戦となつたが、結局ダブルスを落としてしまった。第１シングルス岩下も、神奈川の渡辺直人に敗れて国体４連覇の夢も消えてしまったのである。昭和47年10月の第27回国体には、前年までの追われる立場から追う立場に変わって出場した。兵庫、宮城、準々決勝鹿児島と楽に勝ち進んだが、準決勝は世界選手権出場のメンバーをそろえた強敵東京の対戦である。この試合を観戦していた神奈川の小島一平選手（日本代表）が後で「山梨は見事な試合をした。東京を破るとなればとんだことになる。敗れはしたが今日の好一番といえるだろう。」（山梨日日新聞 昭和47年10月26日）と言うほどの試合を展開した。ダブルスは東京の池田・栂野尾組、第１シングルスは山梨の秋山が勝ち、第２シングルスは岩下が善戦したが栂野尾に敗れ優勝奪還も成らなかったのである。昭和48年10月の第28回国体も、前年と同じメンバー窪田、秋山、岩下で出場した。福島、大阪と破ったが準々決勝で２時間40分にわたる死闘を展開したが富山に１－２で敗けてしまったのだある。富山と比べると年齢的なハンディがありバドミントン王国「山梨」

も大会４日目で姿を消してしまったのである。田村博監督(甲府商業高教諭)が「第２の秋山・窪田を育てなければならない時期がこれではっきりした」(山梨日日新聞 昭和48年10月17日)と言うように若手選手の養成を痛感したのである。昭和49年10月の第29回国体では、秋田、新潟と破り準々決勝は宿敵東京との対戦である。全日本チャンピオンの東京池田・栂野尾組に窪田・秋山組が対戦した。前年からも感じられていたように年齢的な衰えもあり敗けてしまい、ベスト４の夢もなくなってしまったのである。「かっては国民体育大会一般男子で３連覇を果たし、非常に激しいこの競技で10年間も第一線を守ってきたのは驚異的なことであり、原会長も『二人を県スポーツ史に残る選手』と評した」(山梨日日新聞 昭和49年10月24日)と論評されてはいるが、前年同様に後続選手の育成が急務であり再建を胸にしたのである。

5　原　二三雄会長就任

（昭和49年～）

体育史第１号に記載されているように、昭和22年に本県にバドミントンが導入されたときの講習会に参加し、バドミントン界に入った。昭和24年の第１回全日本選手権大会に参加後も数々の大会に参加した。そして県内の先駆的指導者としても活躍し、バドミントン競技の普及発展に尽くした。昭和27年から30年までは県協会理事長として組織固めも行い、49年度に会長に就任した。(財)日本バドミントン協会加盟団体会長の中では唯一の第１回全日本選手権大会参加者でもある。就任後は、全日本チャンピオンズ招待試合、全日本社会人大会、日中・日韓等の国際大会などをとおして財政・選手育成に手腕を発揮し、今日の協会の隆盛に寄与している。また、「かいじ国体」の時には開催地勝沼町に要請して、ぶどうの丘センター前庭に参加監督選手に一生の思い出となるように、氏名入りの記念碑を建立した。

6　高校生の活躍

関東高校大会で昭和45年甲府二高の６年ぶり２位入賞、昭和49年の甲府湯田高４回目の３位入賞があるが、昭和61年まで入賞のない期間が続いた。男子においても甲府商業高の昭和36年優勝、37年３位、38年優勝を境に女子と同様の状態であった。

一般男子が国体で上位入賞が出来なくなったのと前後して、勝沼町に若い芽が育った。松野辰也を指導者として松野修二、宮健次の中学生が高校生の中にはいり頭角を現した。県内大会では高校生を相手にしても向かうところ敵がいないほど実力をつけて、昭和54年に日川高校に入学した。昭和36年に秋山真男が全国高校総体で活躍後はあまり好成績を残していなかった高校男子が活躍を始めた。昭和55年６月の関東高校大会で日川高校が初の３位に入賞した。翌56年３月に行われた全国高校選抜大会では、日川高校が団体ではベスト８にとどまったものの、個人戦では大活躍をした。シングルスで松野修二、ダブルスでは松野修二・宮健次組が初優勝をした。６月の関東大会では神奈川の日大高校に破れたものの２位を獲得した。さらに、８月の全国高校総体で大活躍をしたのである。２回戦会津工業高、３回戦高岡一高、準々決

勝逗子開成高、準決勝比叡山高と破り、決勝戦は６月の関東大会の決勝と同じく地元日大高との対戦となり、雪辱を果たし見事初優勝を飾った。団体戦優勝の勢いは個人戦においても発揮され、ダブルスで松野・宮組が優勝、シングルスでも松野が２位を獲得した。さらに、10月の国体でも実力を発揮し、２回戦徳島、準々決勝秋田と楽に勝ち進んだのである。強敵石川との準決勝戦も３時間の熱戦の末勝ち抜き、待望の決勝戦にコマを進めたのである。しかし、全国高校総体シングルス優勝の松浦進二を核とする地元滋賀には、積極的に攻められ惜しくも２位に終わってしまった。しかしこの１年間の成績により、山梨に日川高校ありと言われるようになった。その後は、関東高校、全日本ジュニア、全国高校選抜、全国高校総体等で常に上位入賞を果たし続けている。

一方女子においても、昭和59年の全日本ジュニア大会で日原明子(山梨英和高)がシングルスで３位、昭和60年には日原恵美里(山梨高)が５位を果たした。さらに昭和61年の関東高校においては、国体強化の効果もあり増穂商業高が３位に入賞する大健闘をした。全国高校総体、全日本ジュニア大会等でも上位入賞をするまでの競技力を身につけるまでになった。

７　日本代表選手の活躍

昭和56年に全国高校選抜、全国高校総体、国体で大活躍をした松野修二(NTT東京)は、日川高校卒業後バドミントンの名門法政大学に進学した。同期生５人の中でも現在のダブルスのパートナー松浦進二とともに二人はすぐに頭角を現し、２年生の時には全日本総合選手権のダブルスを制覇した。そしてナショナルチームのメンバーに大学生の時から入り、数々の国内大会は勿論のこと、数多くの国際大会で活躍をした。大学卒業後は地元勝沼町で開催される国民体育大会出場のために全日本選手も辞退して出場し、種目別総合優勝の原動力として活躍し、その後全日本男子監督池田信孝氏率いるNTT東京に就職し現在に至っている。国内外各種大会で大活躍をしたその結果は、国際バドミントン連盟(I.B.F.)にも認められ、ソウルオリンピック(エキジビション)に出場し見事に銅メダルを獲得した。以下に松野修二の戦績を列記します。

52年　関東中学校大会出場
53年　全国中学選抜大会出場
54年　全国高校総体団体・単ベスト16、複5位
55年　全国高校総体団体ベスト8、単・複3
56年　全国高校選抜単・複優勝
　　全国高校総体団体・複優勝、単2位
　　全日本ジュニアヨーロッパ遠征
　　日韓高校親善参加(ソウル)
　　第36回国民体育大会2位
57年　全日本学生選手権団体・複2位、単3位
　　第33回日本・インドネシア学生交流参加(ジャカルタ)
58年　全日本総合選手権複優勝、単5位
　　全日本学生選手権団体・複優勝、単3位
59年　全日本総合選手権複2位、単5位
　　全日本学生選手権団体・複優勝、単3位
　　第13回トマス杯男子団体世界選手権大会
　　パンアメリカンゾーン優勝(トロント)
　　デンマークオープン複5位(コペンハーゲン)
　　スウェーデンオープン複5位(マルメ)
　　全英オープン　複ベスト16(ロンドン)
　　日韓親善競技大会(済州島)

日刊スポーツ賞授賞
60年　全日本総合選手権複優勝、単5位
全日本学生選手権複優勝、単2位
第6回アジア選手権複5位（クアラルンプール）
第4回世界選手権複5位（カルガリー）
日中親善競技大会（上海）
東南アジア諸国巡回国際交流（ジャカルタ・バンドン・シンガポール・クアラルンプール・バンコク・ラングーン）
61年　全日本社会人選手権複5位、単3位
第41回国民体育大会成年男子優勝
全日本総合選手権　複優勝、単2位
62年　スカンジナビアオープン　'87複3位（マルメ）
ジャパンオープン　'87複3位
第77回全英オープン複3位、単ベスト16
全日本実業団優勝
全日本社会人選手権単・複優勝
全日本総合選手権複優勝、単2位
第9回日本リーグ最高殊勲選手賞授賞
英国マスターズ複2位
63年　ジャパンオープン　'88複3位
コニカカップアジアトーナメント複優勝（シンガポール）
第78回全英オープン複5位
全日本実業団優勝
オーストラリアオープン（建国100年記念）複3位（パース）
野口賞授賞
NTT東京総支社長賞授賞
ソウルオリンピック（エキシビション）に出場し複で銅メダル獲得
カールスバーグクラシック複3位（プレストン）
全日本総合選手権複優勝、単2位

もう一人の全日本選手野口英代（増穂商高教）は、日本体育大学卒業後母校渋川女子高校で後輩の指導に当たっていたが、「かいじ国体」も１年後に迫った昭和60年に郷里を後にして甲府南高校に赴任した。その後は国体のために毎日練習に励み、８月には甲府で開催された全日本社会人大会では２位に入賞した。全日本教職員大会でも優勝するなど少年女子の手本ともなり活躍した。国体終了後、増穂商業高校に転勤になり、生徒の指導とともに自分の競技力向上にも励み教職員大会の連勝記録も延ばし（現在５連覇中）、全日本総合選手権等の戦績をも認められ昭和63年全日本代表選手に選ばれた。そしてユーバー杯世界女子バドミントン選手権大会に出場した。大会参加後の野口選手は感想を次のように語った。「改めて勝つことの難しさを痛感した。あらゆる面においてよい環境の中で練習することだけがすべてではなく、ときには悪条件の中での練習も必要ではないかと思った。」（バドミントンマガジン1988年７月号）

54年　全国高校総体単5位
55年　全日本学生選手権団体2位、単5位
第33回日本・インドネシア学生交流参加（ジャカルタ）
56年　全日本学生選手権単3位・複5位
57年　全日本学生選手権団体・複優勝、単3位
全日本総合選手権複5位
58年　全日本学生選手権団体優勝・複3位
59年　第23回全日本教職員選手権単・複優勝
第22回関東選手権一般女子単優勝
60年　第28回全日本社会人選手権単2位
第24回全日本教職員選手権一般女子単優勝
第23回関東選手権女子複優勝・単2位
61年　第25回全日本教職員選手権一般女子単優勝
第41回国民体育大会成年女子3位

62年　第26回全日本教職員選手権一般女子単優勝 複3位
第25回関東選手権女子単で優勝
63年　第12回世界女子バドミントン選手権(ユーバー杯)のアジア予選参加(ニューデリー)
全英選手権大会に参加(ロンドン)
フランスオープン複で5位
第12回世界女子バドミントン選手権(ユーバー杯)に参加(クアラルンプール)
第27回全日本教職員選手権一般女子単優勝
第31回全日本社会人選手権単2位
第26回関東選手権女子単で優勝
第9回ソ連オープン複3位

8　第41回国民体育大会かいじ国体

(1)　組織の改革について

昭和43年から45年の一般男子３年連続優勝とその前後に続く輝かしい成績のもとに、バドミントン王国「山梨」とも言われた本県ではあるが、秋山真男、窪田恵三に続く選手の強化育成が思うように実らずに、その後は不振を続けていた。しかしながら、昭和54年に秋山真男が理事長に就任し、国民体育大会を成功させるには競技運営と選手強化の両輪が互いに連絡を密にしバランスよく回転しなければならないとの考えのもとに、総務委員会、競技委員会(競技部・審判部)、強化委員会、普及委員会と委員会制に組織替えを行った。そして、競技運営を窪田恵三、選手強化を保坂和也(増穂商業高教)両副理事長が担当した。

(2)　競技運営について

競技運営については、大会を円滑に運営するのは勿論のこと、選手に気持ちの良い試合が出来て、一人ひとりに一生の思い出深い大会になるよう競技役員、審判員の養成を行った。昭和59年の役員改選においては、大会時の競技役員を中心に役員選出を行い、その後毎月定期的に特に61年度にはいると月２回の研修会を重ねた。昭和59年度国民体育大会関東地区予選会、昭和60年度全日本社会人大会、昭和61年度関東シニア大会等の競技運営による研修で万全の体制を整えるべき準備をした。また、審判員の養成についても資格取得のための審査会あるいは資質向上のため派遣審判員として各種大会へ派遣を行い、選手に気持ち良く試合が出来るよう養成を行った。

(3)　選手強化について

国体３連覇という輝かしい成績を残してはいるが、本県の競技人口は、一般(社会人・家庭婦人・教員)約600名、高校生約450名、中学生はごくわずかと全国に比較すると非常に少ないのが実状である。少年は大部分が高校入学後にバドミントンを始める様な状態であり、成年の強化と大きな隔たりがあり選手強化には特に困難な面があった。強化委員会では保坂委員長、松野辰也副委員長(自営)のもと、松野成年男子監督、久津川孝成年女子監督(甲府工高教)、金子寛少年男子監督(日川高教)、滝川修少年女子監督(甲府商高教)が中心となり、その他コーチと４種別の選手強化方法、スケジュールの調整など綿密に打ち合わせを行い相互理解を深めた。また、全日本男子監督でありNTT東京監督の池田信孝氏を専任コーチにお願いした。池田信孝氏の厳しくもあり暖かい指導助言は選手監督を勇気づけ、選手は自信を持つことが出来るようになり種目別優勝への大きな力となった。

61年４月からは、「かいじ国体」のために地元山梨に就職した松野修二(山梨県教育委員会競技力強化指導課)が中心となった成年男子が、けん引的役割を果たし毎週末の合宿と平日の夜間練習を実施した。また成年男女はNTT東京との合同練習、少年男女は正月も返上しての冬季特別研修も行った。少年男女については、その力が61年全国高校総体で個人戦を中心に発揮されたのである。このように、合宿遠征など監督・コーチ・選手の三者が一体となり毎日毎日積み重ねた練習と、これを支えてくれた多くの人々の暖かい協力があったからこそ総合優勝が出来きた。

ア　成年男子

総合優勝するには、熊本に勝たなければならない、その熊本県には国体２年連続優勝と61年全日本社会人選手権大会２位のペアがいるという気持ちがあったのか、松野修二・山本裕幸(スポーツ事業団)のダブルスにやや緊張感がみられた。しかし、鳥取、香川と軽く突破し準決勝の熊本戦。両選手も頑張り大差で勝ち決勝にコマを進めた。決勝の大阪との試合は、単独優勝がかかっていたので選手も気合いが入り見事快勝し、昭和61年10月16日12時10分長い間の夢がここに実現したのある。

イ　成年女子

決勝進出が目標。全英バドミントン選手権大会等数々の国際大会で活躍した高田幹子(スポーツ事業団)、全日本社会人大会・全日本教職員大会３連覇中(現在５連覇中)の野口英代(甲府南高教－増穂商高教)、成年男女では最も早く山梨県に就職し少年男女のリーダー役をしていた清藤和(スポーツ事業団)の３選手である。福岡、山形には比較的簡単に勝ち、準決勝の富山戦は、ダブルスは苦戦しながらも勝つことができたが、後のシングルス２試合とも大接戦の末、若い富山に敗れて３位にとどまった。

ウ　少年男子

長崎、愛知を下してベスト４入り。準決勝戦の相手は予想外にも埼玉を破った富山。しかし本県選手にとっては全国高校総体優勝(個人戦)の埼玉より精神的には戦いやすい相手であり富山を破り決勝進出。決勝の熊本戦は、選手の健闘も空しく敗れたが２位は実に立派な成績であった。

エ　少年女子

高校入学後にバドミントンを始めるのが県内選手の大部分であるので目標はベスト８であった。しかし少年男子とともに大健闘をした。福島、鹿児島を破り、まず目標のベスト８を確保し、さらに山形も破りベスト４に進出した。準決勝、３位決定戦と敗れはしたが、少年女子の４位は総合優勝には貴重な得点であった。

⑷　国体のまとめ

上記のように、競技運営・選手強化において競技役員監督・コーチ・選手の一人ひとりが自分の役割を果たすことができ国体史上もまれな、４種別入賞という輝かしい成績で種目別総合優勝を飾ることができた。これも県及び開催地の勝沼町の佐藤嘉明町長をはじめ、全町民の皆様の心温まる配慮と声援があったからこそ実現できた事で感謝している。

9　全国高校総合体育大会

平成８年度には、甲府市と竜王町で全校高校総合体育大会が開催された。国民体育大会と比較すると、高校総体はより多くの競技役員・補助員を必要とされ、高体連加盟校が少ない本県では、高体連関係者は大変な苦労があった。原二三雄会長以下協会役員も大会を成功させるために、主に競技運営面での協力態勢を整えた。一番の悩みは、大会では２種以上の資格を要する審判員の養成であり、平成４年度から始められた。しかし、約100名程の審判員を養成することは困難であったので、関東地区を中心に近隣の都県に応援を依頼した。また、使用した会場も４会場であり、競技役員だけでなく補助員の高校生も加盟校の部員だけでは不足したので、会場に近い高校生も動員された。一方、選手強化は国民体育大会とは異なり高体連バドミントン専門部が中心となり実施された。関係者の夜を徹した努力により、大会は競技運営面だけでなく好成績を残すことができた。このことは、今後の各種大会開催に大きな力となるものと思われる。

10　今後の課題と展望

協会設立三年後には全国レベルに達するなど一般の活躍が始まり、昭和33年頃からは高校生がそれに続いた。そして、昭和42年には、社会人と学生陣の活躍は目ざましく、秋山真男、岡崎恵三(甲府市役所)野田秀応(中央大)遠藤和男(中央大)日本代表あるいは全日本実業団、国民体育大会、全日本総合選手権大会で活躍した。そして昭和43年からの一般男子国体３連覇、高校男子の活躍、松野修二・野口英代両選手の活躍があったが、まだこれに続く選手の育成が遅れている。

このように山梨県のバドミントン界は急速に普及・発展し全国水準に到達し、トッププレーヤーの出現により輝かしい足跡を日本バドミントン界に残してきたが、一方、優秀選手の県外流出と小中学校に取り入れてられていない悩みが、中間層を育てるうえの大きな痛手となっており、これらの解決を図り、より競技者層のを厚くし、たゆまぬ努力を重ねて将来の向上発展を期さねばならぬといえよう。

現在関東・全国大会で活躍している選手は、小学生・中学生時代にバドミントンを始めている。従って底辺の拡大、特にジュニア部門の普及と育成が重要である。協会発展の基礎となる選手の発掘と育成について、学校・社会体育の指導者と協会強化委員との密接な連絡により、多くの競技人口の中から素質のある選手を見つけ強化することが、今後に残された大きな課題である。

11　山梨県バドミントン協会の足跡

昭和21年	日本バドミントン協会設立される。
昭和22年４月	普及講習会開かれる。
	初代会長に鈴木幾蔵氏推薦。
	日本バドミントン協会に加盟。
昭和23年３月	山梨県体育協会に加盟。
４月	第1回全日本選手権大会に参加。
	第1回山梨県体育祭りに参加。
	神奈川県と定期戦を結ぶ。
昭和23年12月	日本バドミントン協会、日本体育協会に加盟。
昭和24年	バドミントン競技国民体育大会(第４回)に初参加、本県選手も参加

	活躍する。
	東京都と対抗戦を行う。
昭和25年１月	第1回全日本東西対抗戦に参加
	国民体育大会(第5回)で天皇杯、皇后杯の得点種目として認められる。
	全日本学生大会始まる。
	全日本高校大会始まる。(甲工、甲二参加)
昭和26年	全国高等学校体育連盟にバドミントン専門部が加盟。
	県下高校総合体育大会(第3回)に加入。
昭和27年	国民体育大会に高校女子の種目加わる。
	市川規一会長推薦される。
昭和28年	A・B・C級、社会人対抗大会が行われる。
昭和29年	田中潤次会長に就任。
昭和30年	全国高校大会個人戦の部設けられる。
昭和31年	第2回関東高校大会を甲府市で開催す。
昭和34年	和田吉弥会長推薦される。
昭和38年１月	第1回県下総合大会はじまる。
昭和44年４月	井上忠雄氏会長就任
昭和46年７月	第14回全日本社会人大会を甲府で開催
昭和49年４月	原二三雄氏会長就任
５月	第1回全日本チャンピオンズ招待試合開催
昭和50年８月	第2回全日本チャンピオンズ招待試合開催
昭和51年５月	第3回全日本チャンピオンズ招待試合開催
昭和52年２月	第6回国際バドミントン競技甲府大会開催
昭和53年５月	第4回全日本チャンピオンズ招待試合開催
昭和55年３月	第5回全日本チャンピオンズ招待試合開催
昭和56年７月	第6回全日本チャンピオンズ招待試合開催
昭和57年７月	第8回日中バドミントン競技甲府大会開催
昭和59年７月	第3回日韓バドミントン競技を勝沼で開催
８月	国体関東地区大会を第41回国体リハーサル大会として開催。
昭和60年９月	第28回全日本社会人大会を甲府で開催
昭和61年7月	第2回関東シニア大会を勝沼で開催
10月	第41回国体を勝沼で開催
昭和62年７月	第3回関東シニア大会を甲府で開催
平成元年６月	関東高校大会を甲府で開催
平成８年８月	全国高校総合体育大会を甲府市・竜王町で開催

第2章

寄　　稿　　文

山梨県バドミントン界
草創期の裏ばなし



山梨県バドミントン協会
副会長　松　野　民　雄

バドミントン界の高枝生の先駆者たち

私がバドミントンを始めたのは、山梨県バドミントン協会創立の次の年で、梨大部員として登録されたときである。

甲府一高生だった弟がシャトルコックを家に持ち帰り「一高では、同級生の大塚啓三君や三枝欣一君達が、これを使ってバドミントンをやっている。」との話に私の食指が動かされた次第である。shuttie cockの珍奇な型や、「badominton」のイントネーションと語感には、戦後(第二次大戦)のニュー・ウエーブの匂いがあった。(半世紀、50年の昔である)

この頃は、社会人のクラブと甲府一高、甲府工業、山梨大学に「部」があってプレーをしていた。(既に甲府工業の塚原諒一、小野勝正の両氏は全国的に活躍していたが、甲工と甲一は、どちらが先に始めたのか、両校の部史の名誉のためにも知りたいものだ)

バドミントン界の拠点はモダンなサロン

この頃の甲府は米軍B29の爆撃で街全体が一望の焼け野原になってから３年経っていたが、まだまだ所々方々に焼け跡が目立つ荒涼とした有様だった。

そんな殺風景の街の真ん中に(現中央四丁目)、柱や壁を真白く塗り、タテ・ヨコが２ｍもある大きなガラスを嵌め込んだショウウインドが輝く超モダンな設計の運道具店があった。この店はバドミントン協会や蹴球(サッカー)、山岳等のスポーツのクラブの事務局が置かれていて、蹴球、野球、庭球、卓球、登山等に取り付かれた大勢のスポーツ好きの人々が、いつも出入りしていた。まさにスポーツマンの「サロン」的な存在で、明るいモダンな雰囲気が漂う店だった。

草創期の本県にバドミントン界の先達であり、全日本的に名声が轟いていた長坂祥之助、清水正、原二三雄、野中三郎、山田栄造等の各氏(全日本選手権大会、全日本東西対抗戦で大活躍)もこの「サロン」の常連だった。

当時は、県体育祭(第一回がＳ23年)、社会人と学生を一緒にした大会、横浜市と

の定期戦（Ｓ10年から活動している先進地との親善試合）等の大会を協会が主催していた。

これら各種大会の組み合わせ、運営等の諸会議は、協会理事局のこの「サロン」で行われていた。この「サロン」こそ、本県バドミントン界の揺籃の地であり、普及、発展の拠点であった。店名は「原スポーツ用品株式会社」と称し、オーナーは原二三雄氏だった。

余談ながら、会議終了後にご馳走になった。ラーメンはうまかった。終日「バドミントン漬け」の学生時代が、滅法、懐かしい。（ちなみに、ラーメンの時価は30～35円也）

「バド」大会の桧舞台は焼け残った講堂

一面の焼け野原には、バドミントンが出来るほど大きな建物は、戦災で焼け残った小学校の講堂（全校生徒の集会場）の外には何もなかった。富士川小と朝日小の講堂は、さながら協会専用会場のように借用させて頂き、大変ありがたかった。（今も深謝の念で一杯）

しかし、いくら講堂が大きいと言っても、現代の体育館の比ではなかった。ダブルスコートを横並びに二面つくるのが精一杯。

時たま試合中コートサイドの壁にラケットが当たって折れることもあった。（ラケットはフレームもシャトルもオール木製だったから）

天井も、また、あまり高くなく、しかも屋根裏の木組みが丸出しだったので（天井板が張ってない）、少し高く打つと、それに当たってアウト！　したがって、ドリブンクリヤー、ドライブ、スマッシュ、ドロップが主なストロークで、勿論ハイクリヤーは飛ばせなかった。（有効な打法だと知っていても）

会場の「コートづくり」（講堂は何も書いてない黒光りする板の間なので、ラインを引いてコートをつくる）は、大会に先立つ役員、選手合同の恒例行事だった。（役員はほとんど選手が兼任）ライン引きには「白色チョークを使った。ラインの幅にチョークを折って水に浸し、十分吸収させ、軟らかくしてから書いた。初めてはラインは不鮮明だが（湿っているので）、乾くにつれて白く浮き上がった。また、良く床板に密着して（軟らかい時に書いたので）ラインの上を走っても消えなかった。「うまい方法」だと妙に感心した。が、逆に消す時は「濡れ雑巾」で拭いても容易には消えず「両刃の剣」だとボヤいたものだ。

無手勝流（創意工夫）の技術と戦法

当時は「バド」に関する技術指導書なるものは皆無だった。ただ人伝てに「ラケットは軟式の握り方ぢゃ一駄目」「硬式のように握ること」とテニスを例にして教わっ

た。（？）内容が、技術に関する唯一の情報だった。

各自が創意工夫を疑らして開発した秘法の技術や戦法を駆使して試合に臨んだ。（無手勝流と言っても良い人もいたが）

こんな環境でのバドミントン・プレーに馴染んでいたので、横浜のプライヤージム（米軍体育館。天井は反り身で見上げる高さ、床はコート10面の広さ）での試合は、地元の講堂とは次元の違うバカデカさのため、コート上の自分が圧縮されて小さくなったように感じられた。また、ハイクリヤーの滞空時間が長く感じられ打球のタイミングをつかみにくく、「空振り」のドジを踏むこともあった。（これらは、フライヤージムのマジの話題）

やがて（苦労を重ねているうちに）、甲府一高、甲府北中の建築を嚆矢として体育館が続々と建設された。勢いを得て、両校を会場に第２回関東大会が開催された。（Ｓ31年）

大会では甲府商業・杉山喬、甲府二高・竹下璃江、保坂みつ江等の各選手が大奮闘をし、連日、新聞を飾った。（まだ、テレビの普及は無かった）関係者は歓喜し、「エヘン」と自慢したい気持ちでムズムズしたものだ。

遥かに遠い時代の「はなし」である。

バドミントンがすべての学生時代



山梨県バドミントン協会
理事長　秋　山　真　男

県バドミントン協会理事長の大役を先輩の遠藤眞男さんよりバトンを受け20年になろうとしております。その間幾つもの大会が県内で行われな、なかでも全日本社会人大会、かいじ国体、インターハイと県協会にとって又県民にとっても重要で大規模な大会をすべて好結果に済ますことが出来たことはひとえに原会長はもとより、協会の理事役員と高体連の先生方のご指導ご協力をいただいたからに、ほかなりません。本当にありがとうございました。

さて全英選手権準優勝の思いで等につきましては、40周年で、載せていただきましたので今回はバドミントンを始めた高校そして大学時代を思い出して、書いてみたいと思います。現役を離れ随分たちますが今頭の中に浮かんでくることは自分は本当に「良き指導者」「良き先輩」「良きライバル」「良き環境」をして「良き両親」に恵まれていたことを思い出し深く感謝する思いで一杯であります。特に前理事長の遠藤眞男さんのご指導が無ければ現在の「私はありません」。甲商時代バドミントン競技の実戦型基本練習中でもハイクリヤーで五分間八通り計四十分の練習は大変つらいものでした。真夏の閉めきった体育館の中、同じ高さで、打ってはホームポジションへ戻り又打っては戻り「シャトルは一度もコートへ落とすな！」と厳しい教えでした。又グランドでのトレーニングもダッシュ、前後の兎跳び鉄棒等一時間は休むことなくさせられ、動きが鈍くなれば「お前達は強くなりたいのだろう。同じ高校生に負けたくないのだろう。それだったらそのくらいのこと素早くやってみろ！」と叱咤激励を再々受けたこと、その厳しいご指導のおかげでしょう関東大会団体優勝そしてインターハイでは団体優勝はおしくも逃がしたものも、シングルスでは優勝するこつが出来たのです。世の中のことやバドミントンのことなど何も知らない私どもに「努力、精進すれば必ず良い結果が出せられる」ことを教え体験すらさせてくれたのです。

高校卒業後家業を手伝うことになっておりましたが、遠藤さん始め中大の方々の勧誘説得も影響したのでしょう。両親から何とか許しがもらえ中大へ進学することになります。当時の中大バドミントン部は２部より１部に昇格し、１部の最下位（６位）でありましたが、入部して感じたことは、毎日３時間余りの練習ですが、先輩達が優勝を目指し必死になって頑張っておられ、校風の質実剛健と相まって、私には大変すばらしく感じ、中大へ進んで良かったなと本当に思うと同時に、自分も早く強くなって役にたちたいと心に誓ったことも事実です。

先輩の渡部紘一さん(仙台)には勝利への執念を持ったことの大切さを身をもって教えてくれました。「新聞に載らなければダメだ。」「１位以外は２位も１回戦負けも同じだ」など、練習の終えた後よく説教され先輩のおともでどこでもついていったものです。２年生になると、私にとって最大のライバルになります小島一平君(神奈川)が入部してきてます。部内のレギュラー争いもより厳しくなり、私もエースにならなければと使命感を強く持ち、部の練習が済んでも、夜には近くの高校へ、又実業団チームの練習日を調べては打たせてもらいに行ったものです。他校とは部内の勢いが違います。最下位だった中大は一気にトップにおどりでます。個人戦においても無敵で常に中大の選手が上位を占めます。そして先輩から後輩へとその精神がしっかり受け継がれ中大の黄金時代が10年以上続きました。さてライバル小島君との対戦は常に接戦するも分が悪く、最終学年も関東、東日本と敗れ、このまま２位で学生生活も終わってしまうのか、パートナーである後輩になんとしても勝てない。マラソンの円谷選手のように大変悩み苦しみました。そして送金のお願い以外電話などしたことの無い私がどうゆう理由か寮の近くから夜中、母親に電話をしているのです。１位にならなければと思いこんでいる私が声をつまらせてかけたのでしょう。母親から返ってきた言葉は「もういいから、早く帰っておいで。」という言葉でした。スポーツのこと大学のことなど全く知らない家事だけの母親でしたが、その母親の言葉に安堵し、最後のインカレにもう一度「成せば成る！」を信じ頑張ってみようと思う気になれました。インカレシングルス決勝は当然小島君です。接戦になり３ゲーム目が勝負と思っておったのですが、私の方がコンデション(身技体)が良かったのでしょう。２対０で勝つことが出来たのです。１位になった喜びと自信は格別で人生が明るくなった気がしました。続く全日本選手権でも自分のプレーをコート上で発揮することが出来、大学４年にして全日本のトップに立つことになりました。そして初の海外遠征が全英大会(個人戦の世界選手権)となり、運も良かったのでしょう。日本人初の準優勝の成績を収めることが出来たのです。

選手時代は気がつかず、役員になってから大変皆様にお世話になっていたことが良く分かり、今は少しでもお返しが出来ればと微力ながら頑張るつもりでおります。どうぞ今後ともご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

国体三連覇の思い出



山梨県バドミントン協会
副理事長　窪　田　恵　三

昭和43年10月の、福井国体へ一般男子として秋山真男選手(現理事長)、田中登選手(現甲府市役所)と私の３人で大会に臨んだ。

２年前の第21回大会(前回は不参加)において決勝で敗れているため、今回は優勝を目指しトレーニングに励み、土・日曜日は東京、神奈川へ遠征し、練習試合で体力・技術向上に努めた。シングルスに秋山選手というポイントゲッターがいるので、私はダブルス中心の練習を行った。

いよいよ本番の福井県勝山市へ乗り込んだ。私たちは、香川、山形、そして準々決勝で埼玉を破り、準決勝で愛知と対戦した。ダブルスで愛知のベテラン小宮・板垣組に１ゲームを先取されたが、２・３ゲームを連取して２－１で勝ち、シングルスでは、秋山選手が愛知の安沢選手を２－０と一方的に下し、決勝へ進出した。決勝は手の内を知り尽くした神奈川との対戦。山梨には秋山、神奈川には小島という日本を代表する選手を擁しての戦いでダブルスが勝敗のカギを握ると思われた。吉良・小島組と対戦したダブルスは、私の不調により０－２と簡単に落としてしまった。ダブルスを取るという山梨の作戦だっただけに、この敗戦は大変痛かった。第１シングルスは、秋山選手対小島選手の両エースの対戦となり、第１ゲームを10－15で取られた秋山選手が第２ゲームを15－８で取りタイとした。第３ゲームに入り小島選手のスマッシュを秋山選手が拾いまくり、世界のトップクラスらしい素晴らしい試合を展開、ネットプレーに冴えを見せた秋山選手が15－６で勝ち、対戦成績を１対１とタイに持ち込んだ。優勝をかけた第２シングルスには、神奈川の渡辺選手と対戦した私でしたが、シングルスにあまり自信がなく試合に臨んだ。第１ゲームは、相手にリードを許したが、10－10に追いついてから調子を取り戻し、スマッシュが決まりだし15－12で先取した。第２ゲームに入り相手のミスにも助けられ順調にポイントを重ね13－７とリードしたところで腹痛を起こしコートにかがみ込んでしまった。第１シングルスで頑張ってくれた秋山選手に申し訳ないという気持ちで何とか試合を続けることができた。あと２点取れば「優勝」ということで必死に打ちまくり、15－８で勝利を収めることが出来、念願の初優勝することができた。

昭和38年に神奈川から山梨に来て、当時県体育協会の野口二郎会長から「国体で優勝するように」と言われ、５年目にしてやっと約束が果たせてホットしたことを思い出した。

翌昭和44年は、秋山、窪田に、新しく

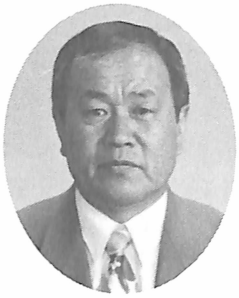
野田秀応選手(現㈱ニューヨーク)が加わり戦力が充実した。10月の国体までは、毎日仕事が終わってからトレーニングに励んだ。秋山・野田選手はスタミナがあり、私はついていくのがやっとの状態であったが、自分なりにスタミナをつけるために努力をした。トレーニングが終わると、夜の街へ酒をよく飲みに行った。これが唯一の楽しみであった。10月長崎国体へ優勝するため自信を持って乗り込んだ。今回は、野田選手がシングルスを戦ってくれるので、私はダブルスに専念した。青森、大分、岐阜を順調に下し、準決勝では新潟を２－０で破り決勝に進出した。決勝は前年と同じく神奈川との対戦となった。オーダーを見てダブルスがやはり勝敗のカギを握ると思われた。神奈川の小島・坂本組と対戦した我々は、第１ゲーム前半はシーソーゲームを展開したが中盤から連続ポイントをあげ15－８でとり、第２ゲームもシーソーゲームを展開したが、秋山選手が素晴らしいプレーを随所で発揮し15－11で勝ち、勝利を確信した。第１シングルスは、日本のエース小島選手と野田選手の対戦となった。野田選手が１ゲームを取ったが、善戦むなしく惜しくも２－１で敗れた。第２シングルスは、エース秋山選手と神奈川の坂本選手の対戦となったが、秋山選手の実力が１枚も２枚も上で、我々もベンチで安心して見ていられた。試合は１ゲーム目は接戦となったが、15－12でとり、２ゲーム目は坂本選手が全く戦意がなく15－０のラブゲームで勝ち、２年連続優勝を果たした。

翌昭和45年の岩手国体も、前年と同じメンバーで臨んだ。広島、秋田、富山を破り、準決勝も岐阜を２－０で下し決勝に進出した。決勝の相手は、神奈川を破った東京都の対戦となった。東京も池田、栂野尾、鈴木という強力メンバーであった。この試合もダブルスが勝敗の分かれ目であると思われた。池田・栂野尾組と対戦した我々は、第１ゲームを18－17で接戦の末取ったが、第２ゲームを６－15で簡単に落としてしまった。勝敗は第３ゲームに入り、必死に食い下がる東京ペアー対し、我々も全力で対抗し何とか15－12で勝利をものにすることが出来た。この試合は、大変苦しい試合であった。第１シングルスは野田選手が善戦するも、鈴木選手に２－０で惜しくも敗れた。いよいよ勝敗は、第２シングルスとなったが、栂野尾選手と対戦した秋山選手の実力が１枚上で15－11、15－６と快勝し、ここに国体３連覇を達成することが出来た。

４連覇をめざした昭和46年の国体は順調に決勝へ進出したが、決勝で対戦した神奈川に０－２で敗れ、４連覇の夢は消えてしまった。

この間、ご指導・ご協力いただきました関係者に感謝を申し上げますとともに、これからの選手は、高い目標をもって練習に励んでいただきたい。

感動の平八総体



前県高体連バドミントン専門委員長
現全国高体連バドミントン専門部部長
保　坂　和　也

“かけぬけろ夏　風をきれ　山梨で”のスローガンの元に全国各地より監督、選手等1,210名の参加を得て、甲府市総合市民会館を主会場に小瀬スポーツ公園体育館・甲府商業高校体育館・竜王町北部町民体育館の４会場36コートで８月１日に行われた開会式から６日の閉会式まで７日間に渡って開催された。

18年間に渡る県委員長最後の任務と思い大会を成功させるべく、前年度は週３日、当年度は４月から週５日甲府市・竜王町両実行委員会に通い準備に従事することとなり、学校での勤務とは全く違った環境と、勤務内容の生活となった。

県協会に審判員養成や関東各都県の委員長に各５名の審判員の派遣を依頼。競技会場や競技日程はほぼ希望どおりになり、平成７年10月には全国専門部の副部長大世古先生と同鈴木先生をお招きしての会場視察で御指導をいただき準備も本格化した。各県内大会において競技役員を４ブロックに分けての運営研修、全国高体連から成田先生を招いてのコンピュータ研修会の開催等の各種の研修会や講習会の実施。弁当の配布計画、O−157の食中毒関係、氷の配布計画、Ｔシャツ等の作成、広告協賛金の依頼、役員補助員の確保・養成等上げ出したらきりがない。

各種の提出書類の締め切りを気にしながら準備に追われ、時間の流れの速さに追いついて行けず、充分な準備も出来ないうちに７月４日組み合わせ抽選会となってしまった。抽選会には、全国バドミントン専門部大世古部長をはじめ全国常任委員の参加をいただき、緊張の中で抽選会が行われた。準備に当たって両実行委員会の御協力はもちろんのこと、県内各高校の先生方には夜遅くまで、申し込みのチェック等大変な御協力をいただく中で無事終了することが出来、いよいよ本番まで秒読み段階にはいった。

深夜迄かかったプログラムの校正や式典要項、業務必携の作成印刷、袋詰め作業、競技役員補助員の弁当配布計画、競技会場準備、種目開会式リハーサル、競技リハーサル、そして韓国忠清北道との親善試合と

目の回る忙しさの中でいよいよ本番を迎え大会が始まった。

７月30日全国常任委員会、31日部長・委員長会議、監督会議とスムーズに進行し、心配した８月１日の開会式は総合開会式に参加しているため、アトラクションは選手の疲労を考え省いたこともあり、短時間で好評であった。

バドミントン競技は「かいじ国体」の６倍の規模であるため、大会運営に携わっていただいた役員及び補助員が１人１役どころか《１人２役・３役》を担い積極的に献身的に役割を果たしてくれ、大会期間中は晴天に恵まれ甲府盆地特有の暑さの中での厳しい戦いとなったにもかかわらず、高校生らしくコート狭しとばかりに躍動する選手の姿や、平素の練習で鍛えられた体力と精神力の高いレベルでのプレーは、私達バドミントン関係者ばかりでなく、県内外の観客に素晴らしい感動を与えてくれた。また男子地元代表の甲府商業がベスト８に進出し大会を盛り上げてくれたことは、これまでの苦労が忘れられる思いであった。

この大会に参加した選手、補助員の高校生が青春の思い出として深く脳裏に刻み、これからの人生に生かしてくれるものと確信している。そして、私達もこの感動を大切にし、教育の一環としての高校スポーツが益々盛んになり人格形成に大きな役割を持つ中で、世界の檜舞台で活躍してくれる選手が出現してくれることを期待している。

長期間に渡って多くの人々の御協力の元に、準備して来た大会も始まってしまうとアッと言う間に過ぎ去り、閉会式となり全国部長より労いの挨拶をいただき無事終了することができた。

そして、50年に１度と言われる大会の準備を通して人間関係の大切さや、素晴らしさを学ぶことができたことが、私のこれからの人生に大きくプラスになってくれるものと確信している。

最後になりましたが、この大会を開催するに当たり山梨県実行委員会、甲府市・竜王町実行委員会、(財)日本バドミントン協会、山梨県バドミントン協会、高校推進委員会、高等学校体育連盟等関係各位に多大な御協力力と御指導をいただきましたことに、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

想　　い　　出



山梨県バドミントン協会
副会長　　秋　山　文太郎

バドミントンとの出会いは、昭和25年10月だった。甲府の太田町公園を通ったとき、空室で甲工の生徒４人が、ラケットで羽根つきをしていた。しばらく見た後で、これは何という競技かと聞いたら、バドミントンだと教えたれた。まもなく湯田校でも井上修吾氏が数人の生徒と校舎の間でロープを張って打ち合うようになった。時たま、ラッケトを借りて打たせてもらった。打ち方でシャトルの飛び方・速度に微妙な変化があることに気付き、バドミントンに興味を持ち始めた。

当時高校にバドミントン部があったのは、甲工・甲一・甲二・湯田位だった。その頃、金谷一雄・橘田登両氏(甲工教論)、井上修吾氏(湯田教論)等が中心となって、バドミントン部の高体連への加盟を申請していた。一方、県バドミントン協会は設立されていて協会の方々の普及指導により、前記４校以外甲商・巨摩・山梨・日川・甲府(のち一商)の各校にバドミントン部がつくられた。昭和26年高体連への参加が許可され、県高校総体へも初参加した。リーグ戦が開かれ技術の向上研究がなされた。ルールブックが唯一の参考書であった。

高体連バドミントン部は、部長 金谷、副部長 橘田の陣容でスタート。県協会の構成員数は一般20名余、高校100名余で主導権は高校側にあり、のちに金谷氏が理事長になった。

巨摩高校へ赴任してから本格的にバドミントンに熱中した。先任者の村田重則氏(のち須玉商校長)と一緒に指導しながら勉強した。男女の部があり、一番の悩みは練習場と経費とシャトルの問題だった。これは各校共通の問題だった。

練習場は旧女学校時の講堂はコートは一面しかとれないし、他の部との関係で週３日朝か放課後しか練習できなかった。雨、強い風のない日は校舎の裏側で練習した。講堂が使える時は一秒でもコートが空かないように大切に練習した。試合前は小笠原小学校の講堂を借りることが出来た。音楽室として使用されていたので、まず、机・長椅子を片隅に運び、黒光する床に白チョークでラインを引いてコートを一面につくった。ポストをたてるのに毎度苦労した。約束の時間前までに雑巾で拭き掃除、整理整頓して学校にもどった。

当時のシャトルは陸鳥(ニワトリ)で、二・三回打つと羽根がちぎれてしまった。痛んだシャトルも家で飼っていたニワトリの羽根を差し込んで、縫い糸や荷札の細い針金で修理して使った。小笠原の某スポーツ店からシャトルを購入していたが、借金がたまってしまい、現金でなければ売って

くれないことになってしまった。シャトルは１個50円だった。部員が無しなしの金を出し合って、３～４個位づつ買ってきた。豆腐が１丁12円、飲み屋の正一合徳利が50円の時代だったから、シャトルは高いものだった。

夏休みには毎年６泊７日の合宿練習を行った。宿舎は教室で、机を並べてベットをつくり、蚊が多くて蚊張を吊って寝た。コーチに小野勝正氏(甲工－梨大－電気店経営)をお願いして、体力増強、技術向上、精神力の高揚を図った。合宿の成果は８月末の高校選手権大会(のちに廃止)で女子が優勝できた。

昭和27年国体甲信越ブロック大会が甲工で開かれた。会場は巨摩と同じ型の古い講堂で、コートは一面、山梨も強かったが、男子は新潟、女子は山梨が代表に決まった。その際、樋口俊夫氏(甲一－梨大－現甲工教諭)が県代表として出場している。樋口氏とはそれ以来ご交誼を載いている。

初期の頃の県大会の会場は朝日小・富士川小の講堂であった。やや経って新制中学の北中、南中のカマボコ型の体育館を借用した。試合数の関係で、７点３ゲームト、11点１ゲーム等の工夫がなされた。30年代になって、甲二・甲一・甲商・山梨・湯田等に体育館がつくられ、進行もスムースになった。

昭和32年までは、ラリー中フレームで打つと「フレームタッチ」でフォルトになった。フレームタッチはわずかなすれた羽根の音、ゴツンとしたコルクの音、不規則な飛び方で判定した。又サービスのときネットインはワンモアであった。

振り返ると、48年間バドミントンと関わってきた。その間顧問としてインターハイ、関東大会国体への参加、協会理事、審判部長、副会長、日本協会審判委員、高体連委員長として多くの方々と出会いバドミントンの奥技を知り人間性を高めることが出来たことに深く感謝しております。

県バドミントン協会、高体連バドミントン部の益々のご発展を祈念して想い出とします。

県高体連バドミントン専門部の運営に携わっていた頃のこと



元県高体連バドミントン専門委員長
樋　口　俊　夫

昭和44年の途中から、松野辰也先生が専門委員長をお辞めになった後を、大きな不安を抱きながらその大役を受け継ぎ、それから約10年間、高体連バドミントン部の運営に携わることができました。その頃の生活を振り返ってみますと、充実した、楽しかった毎日であったと思います。10年近い年月をそんな思いで過ごすことができましたのも、宮川雅義先生、根津修蔵先生をはじめ何人もの部長、三枝　浩先生、根岸　昭先生をはじめとした高体連の先生方、各高校の顧問の先生方などのご指導とご協力をいただくことができたお蔭であり、また、大会のための緑が丘体育館の確保、新人大会学校対抗優勝杯の寄贈、国内外の一流選手を招き高校生も一流のプレーを見学できる試合の開催、審判員の教育・育成など物心両面から助けていただいた県協会　原　二三雄会長をはじめとする会員の皆様方に支えていただいたお蔭と感謝いたしております。そして、保坂和也先生にバトンタッチをするまでの長いようで短かった日々が、幾つかの出来事とともに思い出されます。

開会式に顧問、選手の揃わないチームは失格とする。この申し合わせに該当するチームがでたとき、顧問会議で議し、部長の決裁をもらい、そのチームの取り扱いが決まりました。開会式前の出席確認の時、全チームが揃っていればよいといつも心の中で思っていましたが、私は数回失格の申し渡しをしました。私のチームも高校時代(昭和29年)に総体兼全国総体予選で遅刻者があり、当時の委員長の橘田　登先生から失格を申し渡され、口惜しかった思いをした経験がありましたので、失格を言い渡すときは高校時代のことが思い出され大変辛い、重い気持ちになりました。また、遅刻で忘れられない出来事がありました。昭和48年に緑が丘体育館を会場として全国選抜大会関東予選会が開催されたとき、山梨県の選手が開会式に遅刻をしてしまいました。関東の委員長の中には強く失格を主張された先生もいらっしゃいましたが、地元の選手が出場できない大会ほどつまらないものはありません。大会の運営にも影響

が出ては困ります。そのとき、副委員長であった古澤福生先生が頑張ってくれ、山梨県の選手は失格にならずに出場できました。大会も無事終了し、ホット一息をついた大会でした。

生徒の授業時数の確保がいわれ、大会の開催にも影響をしたときでした。試合の開催は授業に影響のない土曜日の午後と日曜日、祝日に限られました。そのために、選手にいろいろの意味できついことをお願いしていた時代でした。チーム数や選手数が今と大差はなく、高校の体育館を多く使わせていただいたときですから少ないコート数で試合を消化するためには、３回戦位までの１試合を１ゲームとしたり、１ゲームのポイントを男子シングルスとダブルスは11点、女子シングルスは７点としたりしました。準々決勝戦以後の試合は時間的に連続となり、過呼吸、痙攣などを起こす選手がよく出て、無念の思いした選手もいました。そのために、全国総体個人戦予選、新人大会個人戦では１チームから出場できる選手数の制限をして、出場する選手には十分力を出しきれるような方法を考えました。立派な体育館も増え施設が整備されてきている現在は、バドミントンを志し精進している生徒にとって多くの試合の場がつくられた良い時代になったと思います。

戦災にあわずに残った小学校の講堂を借用し、練習や試合の前に白チョークでコートのラインを皆で書き、ボストを綱で引いてネットを張った手作りのコートの会場が、今のような立派な体育館の会場に変わったように、山梨県のバドミントン界が、今まで積み重ねてきた実績の上にさらに発展されますようお祈りします。

バドミントンとの出会いから二十六年



山梨県バドミントン協会競技委員長
白　倉　一　民

昭和47年の４月に、甲府湯田高校へ赴任。私学ゆえ、ほとんどの分掌が決まっていた中で、生徒会の部顧問のバスケットボールとバドミントンだけが、なぜか空いていた。中学から大学までスポーツに全く縁のなかった私は、ハードなイメージのバスケより、優雅な感じのバドミントンを選んだ。副顧問は薬袋等先生だった。さっそく、初練習にと体育館へ足を運んでびっくり。部員こそ少ないものの、汗だくになり厳しいトレーニング。羽を打ちはじめるや、思い描いていた優雅さとはかけ離れたスピード感。しっかりと挨拶され、「はて？」ととまどった。職員室の座席は、たまたま前監督であった井上修吾先生の隣。先生から「いいコーチを紹介しよう」という話があり、当時、第一商業で男子を教えていた望月勝コーチの指導で練習することとなった。

最初の顧問会議は薬袋先生に連れられ、甲府商業(旧青沼)へ。田村博、秋山文太郎、樋口俊夫(当時、高体連委員長)、古沢福生の各先方を紹介された。私にとって最初の試合は、甲府二高(現在甲府西)の体育館(現在は県民文化ホール)で行われた第18回関東大会県予選。二次トーナメント代表決定戦で巨摩に２対１で敗れた。大会終了後、近くの食堂「あいちゃん」で顧問の懇親会があり、連続出場を誇っていた我が校の関東大会への出場がストップしたことの大きさを知り、ショックを受けた。伝統の火を消してはならなぬという強い思いが走った。以来26年、バドミントンンを続けてこれたのは、あの時の敗戦が原点だったと思う。また、私と一緒に入学した新入部員に、落合光子、五味勝み、戸田豊子、雨宮弘子、山田公子ら、後に活躍する強力なメンバーがいたことも励みとなった。昭和49年からは県高体連副委員長として、樋口先生、保坂和也先生の下で大会運営を手伝ってきた。以下、昭和47年から平成成９年までの県高体連、栄光の軌跡を回顧したい。

＜男子＞

甲府商業の昭和32年からの県総体10連覇という黄金時代が終わり、言わばどこが勝つかわからない、という戦国時代(Ｓ47～53)に入った。高校総体へは、甲府商(Ｓ47，48，52)巨摩(Ｓ49)機山工(Ｓ50，53)東海大甲府(Ｓ51)とめまぐるしく出場校が変わった。

昭和54年からは、松野修二・宮健次が登場。昭和61年までの日川高黄金時代の礎を築く。特筆すべきは、昭和56年の日大高(神奈川)との対決。６月、甲府で開催

された関東大会決勝では『日川が惜敗。８月、平塚での全国総体は見事優勝。全国の頂点に立った。土屋稔、安間一彦、斉藤誠、宮康二らの力も大きかった。また松野・宮組(複)も優勝。松野(単)も優勝という快挙であった。が、翌年の昭和57年、枕崎(鹿児島)で開催の全国総体に第一シードで乗り込むはずが、県予選で、東海大甲府にまさかの敗退。戸井竜彦・吉田憲司・数野浩士・深沢昇(東海大甲府)らが斉藤誠・宮康二・志村裕喜・千葉明・野呂奏教(日川)らを２対１で破り、会場を沸かせ、歴史に残る試合となった。この間他に個人では、児玉和也(Ｓ60甲府商)池谷実・遠藤房一(Ｓ60東海大甲府)武井力・五味直(Ｓ60，61日川)輿石努・岩佐延寿(Ｓ61，62日川)らが活躍した。昭和62年から平成元年の３年間は甲府工業の時代。岩間徹・藤原尚一(Ｓ62)小沢浩司・平川弘(Ｓ63)らが粘り強く全国総体に駒を進めた。この間、内田昭(Ｓ63日川)市川義臣(Ｓ63～Ｈ１東海大甲府)三沢浩士(Ｈ１，２日川)佐藤賢次(Ｈ１～３日川)大森正智(Ｈ３甲府商)らが活躍した。平成２年からは日川、甲府商の二強時代に入り、一年交替で全国大会に出場。雨宮耕司(Ｈ４日川)高附三本矢(Ｈ５甲府商)日野原重樹(Ｈ６日川)平田悠(Ｈ７，８甲府商)日野原幸次(Ｈ７～９日川)らが活躍した。

＜女子＞

昭和47年の甲府二高(現甲府西)の県総体四連覇の後、昭和48年から55年までは甲府湯田の時代に入った。全国総体(団体)には甲府二(Ｓ50)巨摩(Ｓ53)の他は甲府湯田が６回出場。個人では落合光子・五味勝み(甲府湯田)が、全国選抜(Ｓ49)で第３位に入り注目された。(当時は全国９ブロックの代表９組のＡ・Ｂパートに分かれてのリーグ戦で個人のみ。同時に単も開催)この間個人では、長谷川美紀子(Ｓ53巨摩)和智砂織(Ｓ55湯田)らが活躍した。

昭和56年から増穂商業が登場。58年までに県総体三連覇を達成。村松聖子・名執さきえ(Ｓ57)らが中心となった。また、日原明子(英和)は高校総体シングルス三年連続出場(Ｓ58～60)を果たした。昭和59年には、萩原雅子・池田春美を軸とする甲府湯田が盛り返し、四年ぶりに全国大会に出場。昭和60年は、井野根久子・森沢政美を中心に、甲府商業が県総体初優勝を飾り、男子とともに甲府商の台頭を印象づけた。昭和61年は「かいじ国体」開催年となり、三年越しの選手強化で、県内の大会もハイレベルとなった。そんな中で今井景子・早川美恵子を擁する増穂商が頭角をあらわし、三年ぶりに全国出場を果たした。昭和62年から平成３年までの三年間は、日原恵美里・徳武美保・日原由美子らの活躍で山梨高校が県総体三連覇を達成。県外でも大いに活躍した。平成２年は青柳しのぶ・林春美、平成３年は小林由香里・小林智子・松土香織を擁する甲府湯田が二連覇。平成４年からは、増穂商業(Ｈ４)甲府湯田(Ｈ５)甲府商(Ｈ６)と優勝が入れ替わる戦国時代に入り、平成７年は川田幸代を軸とずる東海大甲府が悲願の初優勝を飾り、平成８年総体(山梨)と二年連続出場。斎藤寛子の活躍が光った。また平成８、９年と甲府商が連覇。矢崎詠子がシングルス２年連続出場した。

「かいじ国体を振り返って」



かいじ国体少年男子監督
金　子　　寛

“61国体”という言葉が本格的に上がり始め、各校に強化部が指定されたものの私の中では地元国体というイメージはまだピンとこないのが正直の所でした。とにかく毎年与えられた状況下で自校の選手強化により、指定部に恥じない戦績を残すのが精一杯で、それが国体強化につながると単純に考えていたと思います。いずれにしても五里霧中というのが実感でした。当該学年の中学選手や高校生の強化が始まり、体力測定データをとり、基本技術のチェックをする過程でも大変な事だと思うと同時にこの中から本当に国体で戦える選手が育てられるだろうかという不安は大きいものがありました。特に私など優秀選手を育てたり、指導した経験もない者にとっては、雲を把むような感じでした。57年２月県強化対策本部主催の指導者講習会が、中・高・一般の指導者を対象に開かれ、栃木県今市中学校の斉藤佶先生の講義を受けました。数々の名選手を育てられた先生の指導法は新鮮でした。審判養成や運営の準備も各種リハーサル大会等を開催する中で行なわれました。協会・中高体連・社会人が一体となることは大変な事ながら徐々に準備が進行して行きました。強化予算会議では、担当者から「こんな計画で勝てるんですか」と詰問され返答に窮したことも度々でした。

そんな中で、地道に小中学生育ててこられた勝沼スポーツ少年団の松野辰也先生は常に先を見通し個々の選手の潜在能力を見抜いて指導され、次々に優秀選手を高校に送られ、日川高校インターハイ優勝等の実績から国体へのレールを着実に敷いて下さっていました。少年男子準優勝という好成績を残せたのもその下地があったことは言うまでもありません。強化選手はすべてスポ少出身者であり、小中高一貫の指導の重要性を実証した訳です。59年には強化選手は10人程に絞られ、日川の五味・武井・笠原・斉藤・相山・大竹、甲府工業の内田高・内田貢・平山、東海の古屋卓、勝沼中の輿石という陣容でした。その後、岩佐が最終選考で入り、当年度は３年の内田高・内田貢・斉藤、２年の輿石・岩佐の５人で臨むことになりました。内田高の柔軟性、内田貢のエースショット、斉藤のパワー、輿石のスピード、岩佐の執念と巧みなゲームメイク等それぞれの持味を評価したものです。強化練習・合宿では、まず声を出す等の基本的な事からチームのムード作りにも時間はかかりました。他県に胸を借り何でもいいから刺激を受け、吸収できるものは得ようと無理なお願いをしたにも拘らず、どの県・高校・社会人の指導者、選手も快く引き受けて下さり、頭の下がる思いと感謝の念で一杯でした。自分の練習にはさほどならない他県の選手に誠実に、熱心に温かく相手をして頂き、また情熱と理論を持ったベテランの一流指導者からの貴重なアドヴァイスや指導法は選手強化の財産となりました。

数え挙げれば紙面が足りませんが、特に越谷南の大高先生、上尾の阿部先生、小松

原の帰山・中山先生、日大鶴ケ丘の前田先生、日大高の日向先生、桐商の西巻・岩崎先生、栃木の遠井・別井・森田先生、作新の村上先生、千葉敬愛の大熊先生、奈良一条の武田先生等々、また電電東京(NTT)の蒲田体育館で何度も一流選手に基本を指導して頂いた。また、長谷川博幸氏(ヨネックス)も度々来県して下さり温かい指導をして頂いた。法政大学、日大等には出向いたり、来県してもらう等々、60年８月には熊本遠征で本郷・工藤・権藤先生・社会人の方々、地元主力選手が一週間付き合ってくれました。夏の強化練習で700試合は消化するとか、小学生大会では3,000人が参加する等の話に圧倒されたものでした。61年３月末から４月初旬には東北への長期遠征、少年男子への不安を察知された保坂和也強化委員長も同行、一段と選手も締まってきました。東奥義塾の佐藤・市川先生、弘前工の宮崎先生、宮城県工の白岩先生、日大山形の桔梗先生等、感謝感謝でした。

強化本部の上野敦男先生も栃木遠征などに激励に来て下さり、古屋孝徳先生にも各種大会に駆け付けて頂くなど、多数の応援・支援の中で強化が続きました。

そんなハードスケジュールの中で、選手は疲労と重圧感、足腰の故障などに悩まされ、練習への欠席者も続出、また「こんな練習にはついていけない、やめたい」と言い出す選手も出てくるなど焦りや不安は募りました。気分転換とリハビリも兼ねてプールへ行くこともありました。甲工の選手は日川に合流するのも大変だったろうし、小瀬での火・木の夜間練習、勝沼での金土日練習等では部の他の選手は残して行かなければならず、副顧問の先生方の協力も大きな支えでした。部員間でも微妙なものがあったと思います。61指定選手と単年度選手との合同練習を重ねるに当り、先輩選手達の協力も大きな力でした。

勝沼大善寺での合宿を中心に、直前には大和中学を“秘密”の練習会場に最終調整行を行ないました。成年男女、少年女子チームとの団結力も一段と増してきました。ダブルスの奥石・岩佐ペアも実に息の合った独特の持味が出て、内田高のシングルスにも安定性が見えて来ました。精神面・技術面・体力面が３位一体で臨みたいのは当然ですが、それでも最低目標のベスト４に向けてまず初戦の長崎戦も正直の所不安はありました。選手には自信を持たせるしかありません。愛知戦も目途はたつものの取りこぼし出来ません。埼玉を想定していた準決勝は、富山が上がってきて県勢にとってはラッキーでした。試合ごとに３人は素晴らしいゲームをし、予想通り熊本との決勝戦です。真正面に堂々とぶつかるしかありません。決勝に相応しい素晴らじい試合を展開しましたが、熊本の壁は厚いものがあり、惜敗したものの、集大成とも言うべき立派な戦い振りに、グット胸に迫るものがありました。総合優勝に準優勝という貢献が出来た事は何よりも嬉しいことでした。国体強化中央コーチの池田信孝氏(電電東京)と思わず抱き合ってしまいました。何とも言えない安堵感と充実感で一杯でした。言うまでもなく、この充実感・達成感の裏には選手自身の言うに言われぬ苦労と努力・汗と涙があり、厳しくも素晴らしい試合を戦い抜いた選手に改めて敬意の念を禁じ得ません。この素晴らしい選手達と一生に一度の地元国体に参加出来た喜びは共有の宝物になりました。

大善寺での祝賀会は、住職・奥さん・あばあちゃんと共に、秋山真男理事長、選手・指導者・コーチ等お互いの労をねぎらい何と楽しい一時だったことか。

こんな貴重な経験を与えてくれた「国体」と支えて下さった地元・県の関係者、お世話になった他県の指導者・選手にも衷心より感謝申し上げたいと思います。

選　手　強　化



県高体連バドミントン専門委員長
かいじ国体少年女子監督
滝　川　　修

少年女子の目標成績８位入賞。中学時代で県外大会にて活躍した選手は１人としてなく素人同様の選手達の強化練習が保坂和也総監督と共に始まりました。ラケットの持ち方、スイングの練習、基礎体力の強化と中学時代に終わっていなければならない状況下、また全国の壁は厚く目標に達成は厳しい中でのスタートでもありました。増穂商高の選手、早川、今井、深澤は往復２時間以上の日帰りでの小瀬体育館での練習参加でした。更には甲府商業の河野、青野、東海甲府の志村、湯田高校の中込達の強化選手による本格的な練習が始まり最終目標の選手育成に綿密な練習計画が立てられました。県内合宿は勝沼の大善寺に合宿を主におき毎朝の階段ダッシュ、必ずといっていいほどの長時間の強化トレーニング。食事においてもスタミナ作りとして強引なくらい食べさせた食事療法と何事にもスパルタのみの計画であったと思われます。

現在、同様の練習内容であるとすればまず、ついてこれる選手は誰一人として残らないのではと思いながら涙した選手の顔が浮かび上がります。また県外遠征においては栃木県、岡山県、埼玉県等数々のチームと練習試合を重ね又すばらしい指導者達からのアドバイスも頂き確実に強化できたと思われます。本大会の年には中学で力をつけた山梨高校の日原、山田コーチも加わり練習を共にしました。１年生の日原としてはプッレシャーのあまり納得いくような練習にはならず落ち込む姿しか記憶に残っていません。選手達は３年間の練習の中逃げ出すものもいながら又不安も覚えながらも大会直前、最終的に残った選手、河野、早川、今井、深澤、日原らのチームのまとまりも頂点に達し得たと思います。ベスト８位入りを目指しての鹿児島県との対戦、結果は２対０の勝利。「目標達成」この時の選手達の笑顔は今でも忘れられません。勢いで望んだ準々決勝。ベスト４位入りの試合は山形県と対戦２対０でのまさかの勝利に全身にふるえを感じました。試合の結果は堂々の４位と予測しえなかった成果を上げることができました。総合優勝にも貢献でき少年少女のチームとしての使命を果たしえた喜びがありました。しかし、それ以上にこれで「終わった」という安堵感で一杯でありました。

選手強化においで土台を作り上げた保坂和也先生又数多くの指導者、コーチ、最後まで歯をくいしばりついてきた選手に感謝の念で一杯でありました。長くつらかった、言葉には言いあらわすことでできない日々であったように思われます。

50 年 の 思 い 出



小　野　勝　正

小学校６年生の時、戦争で東京より疎開、母の実家のある里垣小学校へ転入した。体が小さく体重も23kgしかなく、体育の出来ない目立たない子供であった。

親が「お前は、兵隊に行っても役に立たないから、銃後でお国の為に働くのだよ」と言って工業の機械科に入れた。

入学３年目頃か、クラスの秀才で運動能力抜群の塚原(現Ｄポット社長)が、部の設立を呼びかけ、機械科を中心に活動を開始した。宇佐美(現ひたちなか市バドミントン協会理事長)・野明・河西・楳窪等が居た。一高では三枝・大塚が活躍していた。

練習は毎日放課後講堂で、卓球部・ボクシング部と分け合って行った。下級生には里吉・今井・広瀬・青木・樋川等が居た。一般男子ではシングルでは清水・ダブルスでは長坂・山田が強く、女子では岡本・後藤が、又高校女子では、二高が三井・三枝、巨摩が斉藤・保坂、湯田が矢野・戸田。甲府高女が神山・金子、一高の男子丸茂(元甲府税務所長)は塚原の隣に居て、工業で一緒に練習した。

私は工業で勉強した記憶はない。入学当時は、兵隊と同じ脚絆を巻いて登校していた。防空壕の穴堀・桑の皮むき、戦後は焼け跡の整理、そしてバドミントン、親からお前は「バカミントン、バカミントンで勉強はしないのか」と心配をかけた。

毎週日曜日には、市内の小学校、朝日・貢川・千塚・富士川の講堂が借りられる時はどこかで練習をしました。小使いさんに手土産を持って行き、お願いをした。コートはチョークで書き、終了後清掃をした。

ラケットは木製だった。前衛用と後衛用を作り、張りかたを変えた。変形を防ぐ為、プレスをした。プレス器は、自分で木工の授業の時作って使った。

部の顧問は金谷先生、部長は塚原で私は雑用係だったので、原スポーツ(現協会長経営)によく出入りした。ラケット張りを手伝いながら、シャトル・ガットの調達をした。時には、塚原提供のトックリのセーターを、冬のユニホームとして部員に販売した。

石の上にも３年、諺の通り私も少しは打てるようになった。今迄一般男子と練習していた塚原も、時にはダブルスを組んでくれた。その甲斐あって昭和25年第５回愛知国体には、塚原と参加することが出来た。一回戦不戦勝・二回戦香川・三回戦群馬を破り最終日の準々決勝に残った。宿泊費がなくなったが、一般の男女で負担してくれた。試合は優勝した神奈川と対戦し、一進一退よく戦ったが私の力不足で敗れてしまった。精一杯戦った満足感と協会の方々

の暖かい心遣いに、バドミントンをしていて良かったとつくづく思った。

帰校すると職員室の前に、二人の活躍の写真が貼ってあった。３年生の体育の評価は３であった。そのくらい運動能力のない私でも、努力は大切だと思い卒業の寄せ書きに、「努力と忍耐」と書いた。

塚原は立教へ、私は梨大へ進んだ。梨大では松野(現協会副会長)・青柳・小林・松野先輩が居た。床がコンクリートの体育館で練習した。

想い出に残る試合は、第１回県下総合選手権大会で、一般男子で・大学・高校参加で二日間、初日英和、二日目富士川小で行われた。準決で商業、決勝で塚原と対戦審判原(現協会長)でフルセット・ジュースで激戦の末優勝出来た事であろう。

私の若い頃の歴史はバドミントンであり、現在元気で仕事の出来る根源は、そのおかげです。特に原会長・塚原は、この尊い財産を与えて下さった恩人です。有り難うございます。

今橘田先生を中心に、毎年11月23日に「シャトル23」の会を持ち、練習と懇談会を行っています。会長私、副会長保坂璃江、幹事大代表・樋口弓利子他楽しく14年になります。

バドミントンの草分け時代

藤　井　　洋

昔は「人生50年」と云われたものですがバドミントン協会も、もうそんな年になって了ったのかしらと驚かされます。

戦後間だ復興半ばに始められた新しいスポーツ！バドミントン。当時勧業銀行甲府支店に勤務していた私は故落合支店長と故三島次長の御理解のもとにバドミントンを始めました。当時バドミントンをする人数も少なかった為、女子では後藤弘子(現佐野)さんとペアを組み、ダブルスで数年間優勝をし、東京・広島・仙台等国体に出場させていただいたものでした。当時は体育館もなく、練習場探しに苦労しました。残業を終えてから商工会議所の講堂を借り、机や椅子を片付けて天井にシャトルをぶつけながら夜９時過ぎまで原会長さん達と共に練習したことなど懐かしく思い出されます。殆どの人が始めて体験するスポーツなので、横浜に遠征したりまさしく草分け時代でした。

現在の様なヘアーピンとかドロップなどと云うテクニックもできず只コートの中を前後左右に走り回りシャトルを拾うだけでした。

協会設立当時共にプレーをした方々は今どうしていらっしゃるかと思いを当時に走らせながら懐かしく思っております。私は昭和32年甲府を去り家庭をもって20数年間ブランクの後、千葉県柏市にも家庭婦人バドミントンクラブができたので仲間に入れてもらい70歳になる今でも楽しみにシャトルを打っております。

協会の今後のご発展をお祈り致しております。

私の生涯スポーツ



樋　口　弓利子

小さい身体の私が、バドミントンなら出来ると思い入部したのが甲府第二高等学校に入学した時でした。

教室に入りきれない程いた新入部員も、夏休み前には６人になっていました。来る日も来る日もランニングと素振りばかりで、先輩がボロボロのシャトルを打たせてくれたのが夏休みの新人戦(学年別大会)の前でした。ルールがやっと分かり試合に出ましたが、中学から部活のある英和に決勝で負け、悔しい思いをしました。それからは毎日毎日練習の明け暮れで、２年生の時に先輩と一緒に団体戦で仙台でのインターハイに出場する事が出来ました。又３年生になってからの試合には、単複とも県内では全勝し、又関東大会で２位、インターハイで４位に入賞することができました。(３位決定戦でファイナルのセッティングで１点が取れず負けてしまいました。)これが私の最高の成績です。

卒業後２年間は試合にも出ていましたが、その後20年間ぐらいラケットを持つことも無く過ごして来ました。ある時、町主催のバドミントン教室があり、私も学生時代していた事を思い出し、教室に入れていただき、久し振りに気持ち良い汗をかく事ができ、若き日がよみがえった気が致しました。練習も楽しくだんだん打てる様になっていくのが嬉しかったのを覚えています。教室終了後は、竜王町の体協バドミントン部に入部し週１～２回の練習に精を出しています。

何年かして家庭婦人のチームにも所属し、全国大会に何回か出場しました。そのたびに自分の技術の無さ、体力の無さを痛感させられるばかりでした。一生懸命練習しても昔風のバドミントンが身についている私は、これ以上に上手になる訳が無いし、現状維持が精一杯だと悟っています。

今は中巨摩郡また山梨県の体育祭等で、竜王町のために少しでも貢献出来ればと努力しています。

高齢化が進み、県民１人１スポーツと言われている昨今、私もバドミントンを積極的に生涯スポーツとし、身近な仲間へと広げていく事を心がけて、元気で長続き出来るように自らが模範となるよう頑張る所存です。微力ながら愛好者の拡張に努力し、山梨のバドミントン界の飛躍的発展を心よりお祈り致します。

オリンピックに出場して



ＮＴＴ東京監督
松　野　修　二

バドミントン競技が、オリンピックの正式種目になったのは1992年のバルセロナからです。その前のソウルオリンピックではデモンストレーション競技として行われました。

ソウルオリンピックのときには、デモンストレーションということで、開会式には参加できず、スタンドから観戦していてうらやましく思ったのと同時に、悔しいと思ったのを今でも覚えています。その時、次回のバルセロナオリンピックでは必ず出場してやると、目標を定めました。当時は、自分でも日本一になればオリンピックに出場できると安易に考えていましたが、実際には大変厳しく、世界ランキングの上位に入らなければ出場できない事を知り、プレッシャーを感じました。年齢的にも、バルセロナオリンピックが最後のチャンスと思い、気合が入りました。

予選方法は、1990年の11月から1992年の４月末までの間、IBFが主催する国際大会で最低８試合以上の参加と15試合以上の消化、そして自分の現ランキング上位者に勝てば上がり、負ければ下がるというオリンピックランキングリストに基づき、上位から単男女それぞれ40名、複男女それぞれ28組(56名)が選ばれ、また１か国最大単男女２名、複男女４組と発表されました。

例年より多くの国際遠征、オリンピックの予選というプレシャーから精神的にも、体力的にもかなりハードだったことを覚えています。

何とか出場権を獲得し、念願のオリンピックに出場できる事となり、「オリンピックに出場する」から「オリンピンクでメダルを」と目標も変わり万全の体制でバルセロナに乗り込みました。

いよいよ試合が始まり、１回戦は南アフリカのペアと対戦し２－０のストレートで破り、２回戦へ進出しました。２回戦は香港ペアと対戦し、これも２－０のストレートで破り準々決勝へ進みましたが、１ゲーム３－13でリードされるなど、今までいろいろな国際大会を経験してきましたが、手が縮こまり、異常に緊張したのを覚えて

います。そして「これが４年に１度のオリンピックだ」と実感しました。

準々決勝は、マレーシアのシデク兄弟との対戦になりました。シデク兄弟は、全英選手権で優勝するなど実績は自分達より上ではありましたが、過去にファイナルゲームに持ち込むなど結構競っていたので「行ける」という思いもありました。そして前夜、「勝てば念願のメダルに手が届く」という期待と不安で眠れませんでした。試合は思ったような動きができず、敗れてしまい５位という結果に終わりましたが、終わった瞬間に「もうあと２年若かったら」という悔しい思いと「終わった」という安堵感との複雑な思いにかられました。

４年に１度のスポーツの祭典、誰もが夢見るオリンピックに参加できたことは、本当に幸せです。過去に世界で活躍した日本の名選手の時代には、オリンピック種目になっていなかったのですから、私の「もうあと２年若かったら」というのは、ぜいたくな思いだったのかもしれません。バドミントンだけの国際大会と違い、開会式のすばらしさ、閉会式の感動、言葉では表現できないくらいの体験をさせてもらいました。

私は、現役を引退しましたが、NTT東京バドミントン部の監督として、後輩の指導にあたっています。自分の達成できなかった夢を後輩に託し、オリンピックのメダリストを育てたいと思います。そして、その選手が私の後輩である山梨県から出れば最高です。

第３章

栄　光　の　記　録

栄　光　の　記　録

全国・関東大会での上位入賞と関連事業及び県総合選手権大会等の成績は次のとおりである。

（昭和23年～昭和63年）

23年４月　第1回全日本選手権大会に参加。
第１回山梨県体育祭りに参加。
（第1回中部日本選手権大会となる。複で原・小川組優勝、単で清水優勝）

24年　バドミントン競技国民体育大会（第4回）に初参加、本県選手も参加活躍。
第2回中部日本大会男子単で長坂祥之助、同複に山田栄造・長坂祥之助優勝。

25年１月　第1回全日本東西対抗戦に参加。
全日本高校大会始まる。（甲工、甲二参加）

30年　第１回関東高校大会複で中込・竹下（甲二）2位、単で中込3位。

31年　第2回関東高校大会を甲府市で開催。女子単で竹下、竹下・保坂組（甲二）複で優勝。男子単で杉山（甲商）2位。

32年　第3回関東高校大会で小宮山・水上組（甲二）2位。

33年　第4回関東高校大会で甲府商業準優勝。

34年　湯田高校関東高校大会で3位。

35年　湯田高校関東高校大会で3位。

36年６月　甲府商業関東高校大会で優勝。
８月　全国高校大会単に秋山真男（甲商）優勝。
10月　高校男子チーム国体で3位。

37年６月　関東高校大会で甲商3位。

38年６月　関東高校に甲府商二度目の優勝。
関東高校に湯田高校3位。

39年３月　全日本総合大会単で秋山3位。
10月　社会人大会単で岡崎2位。

40年１月　実業団大会単で岡崎第3位、複で遠藤・岡崎組2位。
６月　関東高校で甲府二高2位。
６月　実業団大会単で岡崎第3位、複で遠藤・岡崎組2位。
関東選手権大会単で三上勇2位。
12月　全日本総合大会で秋山優勝、秋山・岡崎組第2位。

41年３月　全英選手権大会単で秋山真男準優勝。
５月　社会人大会単で秋山、秋山・岡崎組複で優勝。
10月　国体で一般男子チーム準優勝。
11月　全日本総合選手権男子単複で秋山真男2位。
12月　アジア大会に秋山参加。

42年　全日本総合選手権単複で秋山準優勝。

43年10月　国体で一般男子初優勝。
12月　全日本総合選手権男子複で秋山真男2位

44年10月　国体で一般男子2連覇。
12月　全日本総合選手権男子複で秋山真男2位。

45年６月　関東高校大会で甲府二高2位
10月　国体で一般男子3連覇する。

46年７月　第14回全日本社会人選手権を甲府で開催し、秋山真男単で2位、30才以上単で遠藤真男3位、杉山喬5位。
10月　国体で一般男子2位

47年８月　第15回全日本社会人選手権で秋山真男単で優勝、秋山真男・窪田恵三組複で3位。
10月　第9回世界選手権アジア地区予選に秋山真男出場。
国体で一般男子3位。
12月　全日本総合選手権男子複で秋山真男2位。

49年６月　関東高校大会で甲府湯田高3位
８月　関東選手権で遠藤真男・保坂和也組優勝、保坂和也単で2位。

53年８月　関東選手権で一般男子単秋山真男2位、30才以上男子複で窪田恵三・野田秀応組優勝、同単で岩下一雄3位。

54年８月　全国高校総体複で松野修二・宮健次組5位。

55年３月　全国高校選抜大会で松野修二単で3位、松野修二・宮健次組複で3位。
６月　関東高校大会で日川高3位。
８月　全国中学生大会で宮康二単で5位。

56年３月　全国高校選抜大会で松野修二単で優勝、松野修二・宮健次組優勝。
全日本ジュニアヨーロッパ遠征に松野修二参加。
６月　関東高校大会で日川高2位。
８月　全国高校総体で日川高が団体初優勝。松野修二・宮健次組複で優勝。松野修二単で2位。

日韓高校親善参加(監督金子寛、選手松野修二、宮健次、宮康二)。

10月　国民体育大会で少年男子2位。

57年６月　関東高校大会で日川高3位。

８月　関東選手権高校男子複斉藤誠・宮康二組優勝、一般女子複岩崎映子・和智砂織組2位。

10月　全日本学生大会で松野修二単で3位、複で2位。

12月　全日本総合選手権大会で松野修二複で5位。

第1回全日本ジュニア大会で宮康二単で優勝。

58年３月　全日本ジュニアヨーロッパ遠征に宮康二参加。

全国高校選抜大会で宮康二単で2位、複で宮康二・千葉明組3位。

６月　関東高校大会で日川高初優勝。

８月　全国高校総体で団体で日川高3位、単で宮康二5位、宮康二・志村裕喜組3位。

関東選手権で高校男子単で宮康二優勝、複で宮康二・志村裕喜組優勝。

10月　全日本学生大会で松野修二複で優勝、単で3位。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝、単で5位。

第2回全日本ジュニア大会で千葉明単で2位、千葉明・野呂泰教組複で3位。

59年３月　全日本ジュニアヨーロッパ遠征に千葉明参加。

６月　関東高校大会で日川高3位

８月　関東選手権で30才以上複で渡辺正・小松茂仁組優勝、高校男子複で千葉明・野呂泰教組2位

全国高校総体団体で日川高3位。

日英ジュニア競技会開催。

10月　全日本学生大会で松野修二複で優勝、単でも4位。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で2位。

全日本ジュニア大会で日原明子単で3位

60年３月　全日本ジュニアヨーロッパ遠征に日原明子参加。

７月　第1回関東シニア選手権で秋山真男男子40才以上男子単で2連覇、30才以上女子複で岩崎映子・望月みどり組優勝。

８月　第28回全日本社会人大会を甲府で開催し、野口英代単で2位。

全日本教職員選手権で野口英代2連覇。

全国中学生大会で日原恵美里単で5位。

９月　関東選手権で一般男子単で山本裕幸2位、一般女子単で野口英代2位、同複で野口英代・清藤和組優勝、ジュニア男子複で武井力・内田貢司組3位、同女子複で河野恵美子・早川美恵子組3位。

10月　全日本学生選手権で松野修二複で優勝、単でも2位。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝、単で5位。
全日本ジュニア大会で日原恵美里単で5位。

61年６月　関東高校大会で増穂商高3位。

７月　第2回関東シニア大会を勝沼で開催し、秋山真男男子40才以上単で2連覇、30才以上女子複で岩崎映子・望月みどり組2連覇。

８月　全日本教職員選手権で野口英代単で3連覇を達成。
全国高校総体男子複で輿石努・岩佐延寿組3位、女子複今井景子・早川美恵子組5位。

９月　全日本社会人大会で松野修二単で3位。

10月　国体で成年男子優勝、成年女子3位、少年男子2位、少年女子4位。

11月　第2回全日本シニア選手権30才以上複で岩崎映子・望月みどり2位。
全日本ジュニア大会で輿石努単で3位、輿石努・岩佐延寿組複で3位。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝、単で2位。

62年３月　全日本ジュニアヨーロッパ遠征に輿石努参加。
全国高校選抜大会で日川高3位。

７月　第3回関東シニア大会を甲府で開催し、秋山真男40才以上単で3連覇、岩崎映子30才以上単で優勝、複で3位、兎束保之50才以上単で3位。
関東選手権で女子単で野口英代優勝

８月　全日本教職員選手権で野口英代単で4連覇、野口英代・山田栄組3位。
全国高校総体で輿石努単で3位、複で輿石努・岩佐延寿組3位。

９月　全日本社会人選手権で松野修二単複で優勝。

10月　全日本学生大会で宮康二単複で2位、日原明子単で3位。

11月　全日本ジュニア大会で日原恵美里単で3位、日原恵美里・徳武美保組複で5位。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝、単で2位。

63年１月　全国高校選抜関東地区予選で山梨高校2位、女子単で日原恵美里優勝3位。

２月　第15回世界バドミントン選手権(トマス)、第12回世界女子バドミントン選手権(ユーバー杯)のアジア予選に松野修二、野口英代が参加(ニューデリー)。

３月　全英選手権大会、フランスオープンに松野修二、野口英代が参加。

全日本ジュニアヨーロッパ遠征に日原恵美里参加。
全国高校選抜大会女子単で日原恵美里5位。

５月　第12回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）野口英代が参加（クアラルンプール）。

８月　全日本教職員選手権で野口英代単で5連覇。
全国高校総体で日原恵美里単で5位。

９月　ソウルオリンピック松野修二銅メダル獲得。
全日本社会人選手権で野口英代単で2位。
関東選手権女子単で野口英代優勝。
ウインブルドン国際ジュニア遠征に日原由美子参加。
全日本社会人選手権で宮康二混合で優勝。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝、単で2位、宮康二複で3位

（平成元年～平成９年）

元年９月　全日本社会人選手権で松野修二複で優勝。

12月　全日本総合選手権で松野修二単複で優勝。

２年９月　全日本社会人選手権で松野修二複で優勝。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝。

３年９月　全日本社会人選手権で松野修二複で優勝。

12月　全日本総合選手権で松野修二単・複で優勝。

４年９月　全日本社会人選手権で松野修二複で優勝。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝。

５年９月　全日本社会人選手権で宮康二複で優勝。

12月　全日本総合選手権で松野修二複で優勝。

６年８月　全日本教職員大会で岩佐延寿一般男子単で3位。

７年９月　全日本社会人選手権で宮康二複で優勝。

８年９月　全日本社会人選手権で松野修二混合で優勝。

山梨県総合バドミントン選手権大会の記録

年	種別	優勝	準優勝	第３位	
昭和38年度和田杯	男子単	秋　山(中央大)	遠　藤(中央大)	新　津(商　門)	野　田(甲府商高)
	女子単	萩　原(湯田高)	窪　田(甲府二高)	望　月(湯田高)	望　月(甲府二高)
	男子複	秋　山 遠　藤(中央大)	野呂瀬 野呂瀬(商　門)	宮　川 有　賀(甲府工高)	野　田 田　中(甲府商高)
	女子複	望　月 萩　原(湯田高)	夏　目 長　田(湯田高)	窪　田 角　野(甲府二高)	市　川 相　沢(湯田OG)
昭和39年度和田杯	男子単	秋　山(中央大)	岡　崎(甲府市役所)	早　川(日立)	遠　藤(甲府市役所)
	女子単	功　刀(日女体短大)	望　月(日女体短大)	平　田(甲府二高)	夏　目(湯田高)
	男子複	遠　藤 岡　崎(甲府市役所)	秋　山(中央大) 平　田(商　門)	野呂瀬 新　津(商　門)	遠　藤 森　田(商　門)
	女子複	功　刀 望　月(日女体短大)	望　月 窪　田(甲府二高)	平　田 市　村(甲府二高)	石　川 新　井(英和高)
昭和41年度和田杯	男子単	岡　崎(甲府市役所)	秋　山(中央大)	遠　藤(中央大)	野　田(中央大)
	女子単	功　刀(湯田OG)	望　月(湯田OG)	新　井(英和高)	夏　目(日女体大)
	男子複	秋　山(中央大) 岡　崎(甲府市役所)	野　田 遠　藤(中央大)	岩　下 斉　藤(甲府商高)	遠　藤 三　上(甲府商高)
	女子複	功　刀 望　月(湯田OG)	夏　目(日女体大) 新　井(英　和)	古　屋 内　藤(湯田高)	依　田(湯田OG) 数　野(湯　田)
昭和42年度和田杯	男子単	秋　山(商　門)	岡　崎(甲府市役所)	遠　藤(中央大)	野　田(中央大)
	女子単	新　井(日女体大)	功　刀(日女体大出)	日野原(湯田高)	石　川(昭和女大)
	男子複	秋　山(商　門) 岡　崎(甲府市役所)	野　田 遠　藤(中央大)	遠　藤(商　門) 早　川(甲工出)	杉　山 新　津(商門)
	女子複	新　井(日女体大) 功　刀(日女体大出)	石　川(昭和女大) 数　野(湯田出)	日野原 保　坂(湯田高)	松　木 長谷川(湯田高)
昭和44年度和田杯	男子単	秋　山(商　門)	岡　崎(甲府市役所)	岩　下(中央大)	遠　藤(中央大)
	女子単	保　坂(湯田高)	遠　藤(湯田高)	五　味(英和高)	市　川(甲府二高)
	男子複	秋　山(商　門) 岡　崎(甲府市役所)	遠　藤 岩　下(中央大)	杉　山 遠　藤(商　門)	新　津(商　門) 保　坂(甲府工高教)
	女子複	保　坂 遠　藤(湯田高)	入　倉 望　月(甲府二高)	五　味 望　月(英和高)	保　坂 松　木(湯田高)
昭和46年度和田杯	男子単	秋　山(秋山紙店)	岩　下(中央大)	遠　藤(スワロー化粧品)	窪　田(甲府市役所)
	女子単	保　坂(日女体大)	遠　藤(日女体大)	山　本(甲府二高)	辻　　(湯田高)
	男子複	秋　山(秋山紙店) 岡　崎(甲府市役所)	遠　藤(スワロー化粧品) 岩　下(中央大)	平　山 彦　坂(山梨大)	遠　藤(甲府市役所) 野　田(野田商事)
	女子複	保　坂 遠　藤(日女体大)	矢　崎 山　本(甲府二高)	雨　宮 河　井(英和高)	渡　辺 清　水(甲府二高)

年	種別	優勝	準優勝	第３位
昭和47年度	男子単	秋　山(中央大)	窪　田(甲府市役所)	井　上(中央大)	岩　下(岩下美宝)
	女子単	土　屋(甲府二高)	上　田(甲府二高)	杉　田(甲府二高)	初　鹿(甲府二高)
	男子複	秋　山(秋山紙店) 窪　田(甲府市役所)	岩　下(岩下美宝) 井　上(中央大)	佐　藤 片　岡(甲府工高)	遠　藤 杉　山(商　門)
	女子複	保　坂(甲州中央病院) 入　倉(日女大)	上　田 杉　田(甲府二高)	三　井 長　田(甲府商高)	根　津 山　本(甲府商高)
昭和48年度	男子単	秋　山(秋山紙店)	岩　下(岩下美宝)	小　松(山梨大)	窪　田(甲府市役所)
	女子単	市　村(東女体大)	落　合(湯田高)	宮　川(甲府商高)	天　野(甲府二高)
	男子複	秋　山(秋山紙店) 窪　田(甲府市役所)	岩　下(岩下美宝) 井　上(中央大)	田　中 望　月(商　門)	新　津 平　田(商　門)
	女子複	入　倉 望　月(甲府二高出)	市　川 井　上(甲府二高出)	市　村(東女体大) 天　野(甲府二高)	駒　井 坂　本(甲府二高)
昭和49年度	男子単	秋　山(秋山紙店)	窪　田(甲府市役所)	矢　野(山梨大)	岩　下(岩下美宝)
	女子単	落　合(湯田高)	五　味(湯田高)	雨　宮(湯田高)	相　良(甲府商高)
	男子複	秋　山(秋山紙店) 窪　田(甲府市役所)	岩　下(岩下美宝) 矢　野(山梨大)	遠　藤 杉　山(商　門)	新　津(甲府市役所) 保　坂(吉田高教)
	女子複	落　合 五　味(湯田高)	市　川 望　月(CYBC)	戸　田 雨　宮(湯田高)	初　鹿 土　屋(CYBC)
昭和50年度	男子単	秋　山(秋山紙店)	岩　下(岩下美宝)	渡　辺(フェニックス)	小　松(小笠園)
	女子単	落　合(湯田高)	市　村(東女体大)	中　島(甲府二高)	当　摩(東女体大)
	男子複	秋　山(秋山紙店) 小　松(小笠園)	窪　田(甲府市役所) 岩　下(岩下美宝)	新　津(甲府市役所) 保　坂(吉田高教)	佐々木 福　田(山梨大)
	女子複	市　村 当　摩(東女体大)	落　合 戸　田(湯田高)	中　島 中　沢(甲府二高)	岩　下 大　森(日女大出)
昭和51年度	男子単	秋　山(秋山紙店)	岩　下(岩下美宝)	米　山(秋山紙店)	平　田(秋山紙店)
	女子単	山　田(湯田高)	中　込(巨摩高)	有　泉(甲府商高)	笹　井(甲府北中)
	男子複	岩　下(岩下美宝) 渡　辺(日本銀行)	秋　山 平　田(秋山紙店)	窪　田 田　中(甲府市役所)	土　屋(勤労青年センター) 渡　辺(カシオ計算機)
	女子複	天　野(原産業) 天　野(甲府二OG)	五　味 中　村(塩山体協)	坂　本 天　野(甲府二OG)	矢　崎 平　川(湯田高)
昭和52年度	男子単	米　山(秋山紙店)	赤　池(秋山紙店)	藤　原(長谷川電機)	平　田(秋山紙店)
	女子単	山　田(湯田高)	長　田(電々甲府)	佐　野(東海甲府高)	笹　井(東海甲府高)
	男子複	秋　山 平　田(秋山紙店)	米　山 赤　池(秋山紙店)	土　屋 切　田(フェニックス)	田　中(甲府市役所) 渡　辺(カシオ計算機)
	女子複	矢　崎 望　月(湯田高)	大　木 長谷川(巨摩高)	佐　野 笹　井(東海甲府高)	山　田 平　川(湯田高)

年	種別	優勝	準優勝	第３位	
昭和53年度	男子単	室　田（山梨トヨタ）	米　山（甲府ラケット）	小　松（小笠園）	赤　池（甲府ラケット）
	女子単	前　島（第一商高）	雨　宮（湯田高）	藤　田（湯田高）	斉　藤（甲府商高）
	男子複	窪　田 田　中（甲府市役所）	土　屋（勤労青年センター） 渡　辺（カシオ計算機）	平　田 赤　池（甲府ラケット）	小　松（小笠園） 米　山（甲府ラケット）
	女子複	矢　崎 望　月（湯田OG）	雨　宮（湯田高） 前　島（第一商高）	斉　藤 佐　野（甲府商高）	渋　谷 堀　内（山梨市体協）
昭和54年度	男子単	秋　山（甲府ラケット）	松　野（日川高）	滝　川（甲府商高教）	室　田（山梨トヨタ）
	女子単	斉　藤（甲府商高）	和　智（湯田高）	八重森（巨摩高）	雨　宮（ホワイト）
	男子複	秋　山 平　田（甲府ラケット）	窪　田（甲府市役所） 岩　下（岩下美宝）	小　松（小笠園） 米　山（甲府ラケット）	室　田（山梨トヨタ） 滝　川（甲府商高教）
	女子複	斉　藤 佐　野（甲府商高）	雨　宮 前　島（ホワイト）	深　沢 天　野（YMCA）	畠　山 菱　田（都留文大）
昭和55年度	男子単	秋　山（甲府ラケット）	松　野（日川高）	小　松（フェニックス）	赤　池（ホワイト）
	女子単	岩　崎（ホワイト）	萩　原（湯田高）	斉　藤（甲府ラケット）	前　島（ホワイト）
	男子複	秋　山（甲府ラケット） 窪　田（甲府市役所）	平　田 赤　池（ホワイト）	岩　下（アタック） 滝　川（甲府商高教）	松　野 宮　（日川高）
	女子複	五　味 岩　崎（ホワイト）	雨　宮 前　島（ホワイト）	深　沢 望　月（みどりクラブ）	深　沢 天　野（YMCA）
昭和56年度	男子単	松　野（日川高）	滝　川（甲府商高教）	平　田（フェニックス）	海　野（甲府商高）
	女子単	前　島（ホワイト）	中　島（東海甲府高）	中　島（ウィンクラブ）	長谷川（玉川大）
	男子複	金　子（日川高教） 松　野（日川高）	斉　藤 宮　（日川高）	平　田（フェニックス） 滝　川（甲府商高教）	岩　浪 米　山（フェニックス）
	女子複	岩　崎（甲府ラケット） 和　智（ホワイト）	中　島（ウィンクラブ） 深　沢（YMCA）	前　島 雨　宮（ホワイト）	岩　下 望　月（みどりクラブ）
昭和57年度	男子単	宮　　（日川高）	秋　山（甲府ラケット）	赤　池（ホワイト）	小　松（ホワイト）
	女子単	前　島（ホワイト）	長谷川（玉川大）	山　下（ホワイト）	名　執（増穂商高）
	男子複	小　松 赤　池（ホワイト）	宮 千　葉（日川高）	岩　浪 米　山（フェニックス）	野　呂 三　枝（日川高）
	女子複	岩　崎（甲府ラケット） 和　智（ホワイト）	五　味 雨　宮（ホワイト）	深　沢 前　島（ホワイト）	望　月（湯田高OG） 田　中（湯田高）
昭和58年度	男子単	宮　　（日川高）	滝　川（甲府商高教）	小　松（フェニックス）	千　葉（日川高）
	女子単	岩　崎（甲府ラケット）	和　智（アローA）	前　島（ホワイト）	乾　　（中部食品）
	男子複	宮 志　村（日川高）	滝　川（甲府商高教） 赤　池（ホワイト）	米　山 渡　辺（フェニックス）	小　松 平　田（フェニックス）
	女子複	岩　崎（甲府ラケット） 和　智（アローA）	立　花 名　執（白根体協）	伊　藤（アローA） 乾　　（中部食品）	市　川 高　橋（みどりクラブ）

年	種別	優勝	準優勝	第３位	
昭和59年度	男子単	赤　池（ホワイト）	飯　島（勝沼町役場）	千　葉（日川高）	小佐野（勝山体協）
	女子単	清　藤（山梨県庁）	乾　（中部食品）	井野根（甲府商高）	森　沢（甲府商高）
	男子複	赤　池 平　田（ホワイト）	小　松 米　山（フェニックス）	千　葉 野　呂（日川高）	小佐野（勝山体協） 小　野（吉田市役所）
	女子複	乾　（中部食品） 清　藤（山梨県庁）	望　月（アローA） 岩　崎（甲府ラケット）	前　島（ホワイト） 山　田（山梨大職）	井野根 石　原（甲府商高）
昭和60年度	男子単	松　野（法政大）	山　本（スポーツ事業団）	飯　島（勝沼町役場）	宮　（法政大）
	女子単	野　口（甲府南高教）	清　藤（スポーツ事業団）	今　井（増穂商高）	早　川（増穂商高）
	男子複	松　野 宮　（法政大）	山　本（スポーツ事業団） 飯　島（勝沼町役場）	武　井 岩　佐（日川高）	五　味 奥　石（日川高）
	女子複	高　田（山梨県庁） 野　口（甲府南高教）	望　月（アローA） 岩　崎（甲府ラケット）	雨　宮（湯田高OG） 飯　窪（湯田高）	小　林 今　井（増穂商高）
昭和61年度	男子単	松　野（山梨県教育委員会）	山　本（スポーツ事業団）	内田高（甲府工高）	奥　石（日川高）
	女子単	野　口（甲府南高教）	高　田（スポーツ事業団）	熊　谷（甲府商高）	小川美（甲府工高）
	男子複	松　野（山梨県教育委員会） 土　屋（勝沼町役場）	山　本（スポーツ事業団） 飯　島（勝沼町役場）	内田高（甲府工高） 武　井（日川高）	岩　佐 奥　石（日川高）
	女子複	高　田（スポーツ事業団） 野　口（甲府南高教）	大　場 藤　原（湯田高）	三　浦 清　水（日本電気山梨）	横　瀬 成　瀬（日本電気山梨）
昭和62年度	男子単	宮　（法政大）	赤　池（赤池晶光堂）	志　村（日本大）	矢　野（山梨大職）
	女子単	山　田（山梨大職）	小川美（甲府工高）	林　（勝沼中）	青　柳（勝沼中）
	男子複	赤　池（赤池晶光堂） 吉　田（東海ク）	小　松（小笠園） 矢　野（山梨大職）	飯　島（勝沼町役場） 宮　（法政大）	土　屋（勝沼町役場） 志　村（日本大）
	女子複	野　口（甲府南高教） 山　田（山梨大職）	林 青　柳（勝沼中）	丸　山 小　坂（山梨大）	清　水 横　瀬（日本電気山梨）
昭和63年度	男子単	志　村（勝沼町役場）	矢　野（山梨大職）	飯　島（勝沼町役場）	市　川（東海甲府高）
	女子単	山　田（山梨大職）	青　柳（湯田高）	林　（湯田高）	大　石（湯田高）
	男子複	飯　島（勝沼町役場） 飯　塚（神金郵便局）	小　松（小笠園） 矢　野（山梨大職）	志　村 土　屋（勝沼町役場）	杉　矢 石　田（ファンタス）
	女子複	山　田（山梨大職） 小　林（横河電機）	林 青　柳（湯田高）	森　山 井　上（甲府工高）	大　石 生　原（湯田高）
平成元年度	男子単	矢　野（山梨大職）	市　川（東海甲府高）	古　屋（山梨大）	古　瀬（山梨大）
	女子単	林　（湯田高）	青　柳（湯田高）	大　石（湯田高）	井野根（甲府商高）
	男子複	矢　野（山梨大職） 小　松（小笠園）	古　屋 古　瀬（山梨大）	杉　矢 石　田（ファンタス）	山　下 郷　（山梨大）
	女子複	林 青　柳（湯田高）	大　石 生　原（湯田高）	清　水 横　瀬（日本電気山梨）	松　土 坂　本（甲府商高）

年	種別	優勝	準優勝	第３位	
平成2年度	男子単	矢　野（山梨大職）	古　屋（山梨大）	児　玉（中央大）	出　羽（甲府商高）
	女子単	青　柳（湯田高）	小林由（湯田高）	大　石（湯田高）	松　土（湯田高）
	男子複	滝　川（甲府商高教） 児　玉（中央大）	矢　野（山梨大職） 深　井（インパルス）	出　羽 中　沢（甲府商高）	古　屋 郷　（山梨大）
	女子複	林 青　柳（湯田高）	小　林 松　土（湯田高）	井野根 小　林（甲府商高）	福　田 遠　藤（山梨大）
平成3年度	男子単	児　玉（山梨県庁）	窪　田（花王販売）	大　森（甲府商高）	高　附（甲府商高）
	女子単	高　山（甲府商高）	小　林（湯田高）	矢　崎（甲府商高）	清　水（甲府商高）
	男子複	宮　（シャトレーゼ） 窪　田（花王販売）	滝　川（甲府商高教） 児　玉（中央大）	中　山（テルモ） 大　森（甲府商高）	藤　巻 定　盛（山梨大）
	女子複	望　月 岩　崎（みどりクラブ）	小林由 松　土（湯田高）	相　川 小　沢（峡南信用）	小　林（湯田高） 田　中（ホワイトソックス）
平成4年度	男子単	岩　佐（日川OB）	矢　崎（東海甲府高）	宮　（日川OB）	太　田（東海甲府高）
	女子単	青　柳（湯田高）	田草川（東海甲府高）	望　月（湯田高）	河　野（湯田高）
	男子複	宮 岩　佐（日川OB）	太　田 望　月（東海甲府高）	平　川 田　上（カシオ）	深　井 古　屋（水曜会）
	女子複	清　水 横　瀬（ＮＥＣ）	小　沢 遠　藤（峡南信用）	青　柳 望　月（湯田高）	河　野 有　泉（湯田高）
平成5年度	男子単	高　附（甲府商高）	藤　原（甲府商高）	藤　巻（山梨大）	箕　輪（山梨大）
	女子単	小　野（甲府商高）	石　山（甲府商高）	矢　崎（甲府商高）	内　田（松下電器）
	男子複	児　玉（山梨電子） 高　附（甲府商高）	日　向（甲府商工信用） 石　田（マツダ）	内　田 藤　田（松下電器）	中　山（テルモ） 滝　川（甲府商高教）
	女子複	清　水 横　瀬（ＮＥＣ）	内　田 矢　崎（松下電器）	小　野 矢　崎（甲府商高）	石　山 有　泉（甲府商高）
平成6年度	男子単	児　玉（山梨電子）	輿　石（NECシステム建設）	窪　田（サンワ）	高　附（山梨電子）
	女子単	日　原（山梨電子）	小　野（甲府商高）	小　林（東海甲府高）	川　田（東海甲府高）
	男子複	武　井（山梨ソフトウェア） 輿　石（NECシステム建設）	日　向（甲府商工信用） 弦　巻（富士銀行）	児　玉 高　附（山梨電子）	窪　田（サンワ） 滝　川（甲府商高教）
	女子複	日　原（山梨電子） 小　野（甲府商高）	清　水 横　瀬（ＮＥＣ）	大　木（甲府商高） 村　松（増穂商高）	矢　崎（松下電器） 矢　崎（甲府商高）
平成7年度	男子単	輿　石（NECシステム建設）	平　田（甲府商高）	児　玉（山梨電子）	高　附（山梨電子）
	女子単	日　原（山梨電子）	望月の（甲府商高）	深　沢（甲府商高）	小　野（山梨電子）
	男子複	武　井（山梨ソフトウェア） 輿　石（NECシステム建設）	中　山（テルモ） 大　森（中央大）	藤　原 上　島（甲府商高）	田　中（JA熊本果実連） 保　延（山梨県庁）
	女子複	日　原 小　野（山梨電子）	児　玉 横　瀬（NEC山梨）	深　沢 望月の（甲府商高）	岩　崎 望月さ（甲府商高）

年	種別	優　勝	準優勝	第　３　位	
平成8年度	男子単	日野原(辰成建設)	長　田(甲府商高)	秋　山(甲府商高)	高　附(甲府商高)
	女子単	富　永(ＴＤＫ)	石　山(東女体大)	深　沢(甲府商高)	村　松(ＴＤＫ)
	男子複	児　玉(山梨電子) 長　田(甲府商高)	高　附(甲府商高) 秋　山(甲府商高)	須　藤 功　刀(甲府カシオ)	中　山(テルモ) 高　橋(滝川鉄工所)
	女子複	深　沢 矢　崎(甲府商高)	石　山(東女体大) 望　月(大東大)	日　原 小　野(山梨電子)	望　月 望　月(甲府商高)
平成9年度	男子単	長　田(山梨電子)	日野原(ＩＢＣ)	高　附(山梨電子)	雨　宮(山梨電子)
	女子単	矢　崎(甲府商高)	富　永(ＴＤＫ)	望　月(英和短)	山　田(湯田高)
	男子複	志　村(勝沼町役場) 輿　石(NECシステム建設)	田　中(潤工社) 長　田(山梨電子)	児　玉(山梨電子) 窪　田(サンロード)	中　山(テルモ) 高　附(山梨電子)
	女子複	矢　崎(甲府商高) 矢　崎(甲府商高OG)	望　月(湯田高職員) 小橘田(湯田高)	大　木(甲府商高OG) 大　木(甲府商高OG)	小　幡(甲府商高) 萩　原(甲府商高)

山梨県社会人リーグ戦の成績

年度		1　位	2　位	3　位
平成元年度	1部A	山梨市A	FANTAS	梨大クラブA
	1部B	はねミントンズ(イ)	ウィンクラブ	ウェルネスBC
	2部A	甲府ドリームクラブ	ブラックスターA	ファイヤースピリット
	2部B	日本電気山梨	東日本エムテーピー	山梨市B
	3部A	横河電機	R・B・C	里垣体協
	3部B	ラヂュール	竜王体協	甲府ラケットショップ
	4部A	社会保険クラブ	御坂MBC	ウィンエイト
	4部B	梨大クラブB	大日機工	はねミントンズ(ロ)
平成2年度	1部A	山梨市A	梨大クラブA	FANTAS(A)
	1部B	フレームショット	南西ペガサス	ウィンクラブ
	2部A	ファイヤースピリット	ホワイトソックス	医科大職員
	2部B	横河電機	ブラックスターA	山梨教員
	3部A	竜王体協	乱打夢	甲府ラケットショップ
	3部B	里垣体協	郵政クラブ	梨大クラブB
	4部A	TDK甲府	東京電力	ハニーズ
	4部B	FANTAS(B)	ウィンクラブⅡ	からぶリーズ
平成3年度	1部A	山梨市A	FANTAS	TEAM Aniki
	1部B	ウェルネスBC	梨大クラブA	南西ペガサス
	2部A	山梨教員	上九一色村体協	竜王体協
	2部B	日本電気山梨	ブラックスター	御坂体協
	3部A	TDK甲府	ラデュール	メドマン
	3部B	甲府ラケットショップ	東京電力	ウィンクラブⅡ
	4部A	松下電器A	魚市クラブ	Missショット
	4部B	からぶリーズ	South Wind	松下電器B
平成4年度	1部A	山梨市A	FANTAS	南西ペガサス
	1部B	ウェルネスBC	梨大クラブA	山梨教員クラブ
	2部A	東京電力	日本電気山梨	乱打夢Ⅰ
	2部B	TDK－A	竜王体協	ブラックスター
	3部A	アートクラブ	メドマン	日立東京エレクトロニクス
	3部B	松下電器A	ラデュール	梨大クラブB
	4部A	ハニーズ	魚市クラブ	みどりクラブ
	4部B	アロークラブⅡ	からぶリーズ	乱打夢Ⅱ
平成5年度	1部A	山梨市A	梨大クラブA	ウィンクラブ
	1部B	ウェルネスBC	FANTAS	東京電力
	2部A	山梨市B	甲府ドリームクラブ	パワーズ
	2部B	乱打夢	ラヂュール	ブラックスター
	3部A	South Wind	郵政クラブ	アロークラブⅡ
	3部B	梨大クラブB	ファイブシャトル	日立東京エレクトロニクス
	4部A	TDK－B	ハニーズ	梨大クラブC
	4部B	山梨電子工業A	Diets	魚市クラブ
	5部A	KBC	ネセス	メイキョー

年度		1　位	2　位	3　位
平成6年度	1部A	山梨市A	玉穂体協	TEAM Aniki
	1部B	梨大クラブA	インパルス	ペガサス
	2部A	TDK－A	ファイヤースピリット	御坂体協
	2部B	乱打夢	梨大クラブB	上九一色村体育協会
	3部A	春日居体協	ホワイトソックス	からぶリーズ
	3部B	山梨電子工業A	松下電器コンプレッサー甲府	御坂MBC
	4部A	TDK－B	ウィンレッズ	MUROI
	4部B	ハニーズ	Diets	梨大クラブC
	5部A	大国	YBC	South Wind B
平成7年度	1部A	日川クラブ	ペガサス	ウィンクラブ
	1部B	インパルス	ファルコン	TEAM Aniki
	2部A	甲府ドリームクラブ	ラディール	ブラックスター
	2部B	山梨電子工業A	松下電器コンプレッサー甲府	東京電力
	3部A	からぶリーズI	竜王体協	御坂MBC
	3部B	Diets	ホワイトソックス	春日居体協
	4部A	大国	魚市クラブ	みどりクラブ
	4部B	からぶリーズII	YBC	ニスカ（株）
	5部A	AIUEO	御坂体協その2	South Wind A
平成8年度	1部A	梨大クラブA	ペガサス	TEAM QUATOR
	1部B	玉穂体協	山梨電子工業A	ウェルネスBC
	2部A	滝川鉄工所	ホワイトソックス	乱打夢
	2部B	松下電器コンプレッサー甲府	Chateraise	東京電力
	3部A	からぶリーズI	TDK－B	魚市クラブ
	3部B	大国	竜王体協	アロークラブII
	4部A	South Wind A	K．Y．ツィンズ	MUROI
	4部B	AIUEO	御坂体協その2	からぶリーズII
	5部A	ヴァニラアイス	リバティーハート	ラ・ボンバ
平成9年度	1部A			
	1部B			
	2部A			
	2部B			
	3部A			
	3部B			
	4部A			
	4部B			
	5部A			

山梨県高等学校総合体育大会成績一覧

年度	回	男子			女子		
		1　位	2　位	3　位	1　位	2　位	3　位
26	3	甲府工	甲府一	山梨日川	甲府二	巨　摩	甲府商
27	4	甲府工	巨　摩	山　梨	湯　田	甲府二	巨　摩
28	5	甲府工	巨　摩	甲府一	湯　田	巨　摩	甲府二
29	6	甲府工	甲府二	巨　摩	湯　田	甲府二	
30	7	甲府工	甲府商	石和 甲府一	湯　田	甲府二	石和山梨
31	8	甲府工	甲府一	石　和	甲　二	湯　田	山　梨
32	9	甲府工	甲府商	巨　摩	甲　二	英　和	山　梨
33	10	甲府商	甲府一	甲府工	甲　二	湯　田	山　梨
34	11	甲府商	石　和	韮　崎	湯　田	甲府二	巨　摩
35	12	甲府商	甲府工	石　和	湯　田	甲府二	山　梨
36	13	甲府商	甲府工	韮　崎	湯　田	甲府二	山　梨
37	14	甲府工	甲府商	甲府一	湯　田	甲府二	甲府商
38	15	甲府商	甲府工	巨　摩	甲府二	湯　田	甲府商
39	16	甲府商	甲府工	巨　摩	湯　田	英　和	甲府二
40	17	甲府商	一　商	甲府工	甲府二	英　和	山　梨
41	18	甲府商	甲府工	巨　摩	湯　田	甲府二	韮　崎
42	19	甲府工	甲府商	日　川	湯　田	甲府二	巨　摩
43	20	甲府商	一　商	日　川	湯　田	甲府二	巨　摩
44	21	甲府工	甲府商	日　川	甲府二	英　和	甲府商
45	22	日　川	甲府商	一　商	甲府二	湯　田	甲府商
46	23	甲府商	一　商	日　川	甲府二	湯　田	英　和
47	24	甲府商	日　川	甲府工	甲府二	甲府商	山　梨
48	25	甲府商	甲府工	巨　摩	湯　田	甲府二	甲府商
49	26	巨　摩	機山工	甲府商	湯　田	甲府商	甲府二
50	27	機山工	甲府商	日　川	甲府二	甲府商	湯　田
51	28	東　海	機山工	甲府商	湯　田	甲府二	甲府商
52	29	甲府商	甲府工	機山工	湯　田	甲府商	巨　摩
53	30	機山工	東　海	日　川	巨　摩	東　海	湯　田
54	31	日　川	機山工	東　海	湯　田	甲府商	巨　摩
55	32	日　川	甲府商	東　海	湯　田	甲府商	東　海
56	33	日　川	甲府商	東　海	増穂商	湯　田	東　海
57	34	東　海	日　川	甲府工	増穂商	湯　田	一　商
58	35	日　川	東　海	甲府商	増穂商	湯　田	英　和
59	36	日　川	甲府商	甲府工	湯　田	増穂商	甲府商
60	37	日　川	甲府工	東　海	甲府商	英　和	増穂商
61	38	日　川	甲府工	東　海	増穂商	甲府商	湯　田
62	39	甲府工	日　川	東　海	山　梨	増穂商	甲府商
63	40	甲府工	日　川	東　海	山　梨	増穂商	湯　田
H1	41	甲府工	甲府商	東　海	山　梨	増穂商	湯　田
2	42	日　川	甲府商	東　海	湯　田	増穂商	山　梨
3	43	甲府商	日　川	甲府工	湯　田	甲府商	増穂商
4	44	日　川	東　海	甲府商	増穂商	甲府商	湯　田
5	45	甲府商	日　川	東　海	湯　田	甲府商	東　海
6	46	日　川	甲府商	東　海	甲府商	湯　田	増穂商
7	47	甲府商	東　海	日　川	東　海	増穂商	甲府商
8	48	甲府商	日　川	東　海	甲府商	東　海	増穂商
9	49	日　川	甲府商	甲府工	甲府商	増穂商	湯　田

関東高校バドミントン大会出場校一覧

年度	回	開催地	男　　子	女　　子
30	1	桐　生	甲工・甲商・巨摩	山梨・湯田・甲二
31	2	甲　府	甲工・甲商・巨摩・石和・甲府・甲一	甲二・山梨・巨摩・英和・甲一・韮崎
32	3	千　葉	石和・巨摩・甲工・甲府・甲一・甲商	山梨・甲二・韮崎・湯田
33	4	久里浜	甲商・甲工・甲一・石和・甲府	甲二・山梨・英和・石和
34	5	宇都宮	甲工・石和・甲府・甲商	英和・山梨・巨摩・甲二・湯田
35	6	大　宮	石和・韮崎・甲府・甲工・甲商	巨摩・山梨・湯田・甲二
35	7	新　宿	甲商・甲工・巨摩・甲一・韮崎	甲二・湯田・山梨・巨摩・甲商
37	8	水　戸	甲商・甲工	甲二・湯田
38	9	前　橋	甲商・甲工・甲府・巨摩	甲二・湯田・甲商・巨摩
39	10	山　梨	甲工・甲商・日川・巨摩・甲一・甲府	湯田・韮崎・甲二・巨摩・英和・山梨
40	11	千　葉	一商・甲商・甲工・巨摩	英和・甲二・湯田・山梨
41	12	越　谷	甲商・一商・甲工・巨摩	甲二・湯田・山梨・韮崎
42	13	宇都宮	甲工・甲商・日川・韮崎	湯田・甲二・巨摩・山梨
43	14	横　浜	甲商・一商・日川・甲工	湯田・甲二・巨摩・山梨
44	15	東　京	甲工・甲商・一商・日川	甲二・甲商・英和・山梨
44	16	水　戸	甲商・一商・日川・巨摩	甲二・英和・湯田・甲商
46	17	宇都宮	甲商・甲工・一商・日川	湯田・甲二・英和・甲商
47	18	千　葉	甲商・甲工・日川・巨摩	甲二・甲商・山梨・巨摩
48	19	甲　府	甲商・一商・甲工・甲府南・巨摩・日川	甲二・甲商・湯田・巨摩・山梨・一商
49	20	上　尾	機山・巨摩・日川・甲商	湯田・甲商・甲二・巨摩
50	21	高　崎	機山・甲商・日川・甲工	甲二・甲商・湯田・山梨
51	22	藤　沢	機山・甲工・日川・甲商	湯田・甲二・巨摩・学院
52	23	水　戸	甲工・甲商・巨摩・日川	甲商・湯田・東海・一商
53	24	東　京	東海・日川・機山・甲工	東海・巨摩・湯田・一商
54	25	真　岡	日川・機山・東海・甲商	湯田・東海・甲商・巨摩
55	26	千　葉	日川・甲商・東海・甲府西	湯田・甲商・東海・増穂
56	27	甲　府	日川・甲商・東海・甲府西・甲工・機山	湯田・増穂・東海・甲商・山梨・一商
57	28	上　尾	日川・東海・甲商・甲工	増穂・湯田・一商・甲商
58	29	桐　生	日川・東海・甲商・甲工	増穂・英和・湯田・甲商
59	30	相模原	日川・甲商・甲工・東海・機山	増穂・英和・湯田・甲商
60	31	水　戸	日川・東海・甲工・機山	甲商・英和・増穂・湯田
61	32	東　京	日川・甲工・東海・甲商	増穂・甲商・湯田・韮崎
62	33	宇都宮	日川・甲工・東海・甲商	山梨・増穂・甲商・一商
63	34	千　葉	日川・甲工・東海・甲商	山梨・増穂・湯田・甲商
H1	35	甲　府	甲工・甲商・日川・機山・東海・甲府南	湯田・増穂・山梨・甲商・東海・甲府東
2	36	上　尾	日川・甲商・甲工・東海	湯田・山梨・増穂・甲商
3	37	土　浦	甲商・日川・東海・甲工	湯田・増穂・甲商・東海
4	38	藤　沢	甲商・日川・東海・山梨	増穂・甲商・石和・湯田
5	39	前　橋	日川・甲商・東海・機山	湯田・甲商・増穂・東海
6	40	東　京	日川・甲商・東海・機山・甲工	甲商・湯田・増穂・東海・日川
7	41	宇都宮	甲商・東海・日川・甲府西	東海・増穂・甲商・湯田
8	42	成　田	甲商・東海・日川・甲工	甲商・東海・増穂・湯田
9	43	鹿　嶋	日川・甲商・甲工・甲西	甲商・増穂・湯田・東海

第４章

山梨県バドミントン協会を支える人びと及び団体

協　会　役　員

役職名	氏名	郵便番号	住所
会長	原　二三雄	400-0075	甲府市山宮町1336-3
副会長	松野民雄	400-0014	甲府市古府中町875-3
副会長	塚原諒一	400-0025	甲府市朝日3-11-10
副会長	秋山文太郎	400-0512	南巨摩郡増穂町小室5850
副会長	望月明	409-3421	南巨摩郡中富町八日市場436-1
顧問	原一造	400-0032	甲府市中央2-8-6
顧問	橘田豊雄	400-0032	甲府市中央2-12-28
顧問	有野幸雄	400-0072	甲府市大和町3-6
顧問	田村博	405-0056	東八代郡一宮町一ノ宮1686
理事長	秋山真男	400-0031	甲府市丸の内3-16-13
副理事長	窪田恵三	400-0861	甲府市城東5-16-29
副理事長	保坂和也	400-0603	南巨摩郡鰍沢町鹿島22
事務局長　審判委員会委員長	久津川孝	400-0113	中巨摩郡竜王町富竹新田1160-3
常任理事　審判委員会副委員長	岩下一雄	400-0812	甲府市和戸町66-39
常任理事　競技委員会委員長	白倉一民	408-0003	北巨摩郡高根町東井出1134
常任理事　競技委員会副委員長	丸山哲	400-0072	甲府市大和町1-B-8
常任理事　強化委員会委員長	滝川修	400-0042	甲府市高畑1-9-5
常任理事　普及委員会委員長	宮川実三	400-0865	甲府市太田町7-8
常任理事　普及委員会副委員長	長田知子	400-0025	甲府市朝日5-10-9
常任理事	弦間宗彦	400-0851	甲府市住吉1-10-18
常任理事	上野萬	405-0012	山梨市東後屋敷1016
常任理事	松野辰也	409-1316	東山梨郡勝沼町勝沼757
常任理事	須田浩孝	400-0017	甲府市屋形1-2-23
常任理事	齊木雅仁	400-0062	甲府市丸の内1-17-18
理事	金子寛	405-0079	東八代郡一宮町金田1221
理事　強化委員会副委員長	飯塚正之	409-1302	東山梨郡勝沼町菱山911
理事	天野茂次	400-0066	甲府市新田町18-15
理事	河西敏光	409-3606	西八代郡市川大門町高田2751
理事	小松茂仁	400-0863	甲府市南口町5-4
理事	古屋文明	405-0078	東八代郡一宮町田中170
理事	杉矢正巳	400-0058	甲府市宮原町120 パナハイツ坂本102
理事	功刀時雄	407-0024	韮崎市本町1-12-12
理事	児玉和也	400-0042	甲府市高畑1-5-20
理事	内藤徹	409-3815	中巨摩郡玉穂町成島2337
理事	飯島浩	400-0053	甲府市大里町2098-11
理事	福岡嘉夫	400-0815	甲府市国玉町590-7
理事	久保田一男	406-0801	東八代郡御坂町成田2487
理事	河野政則	409-3711	西八代郡上九一色村梯809
理事	赤池治雄	409-3115	西八代郡下部町切房木214
理事	弦間正明	406-0813	東八代郡御坂町上黒駒4726
理事	三井勝彦	409-3841	中巨摩郡田富町布施2116
監事	高柳祐尊	400-0056	甲府市堀之内町636-3
監事	古谷利夫	400-0828	甲府市青葉町3-7

高体連・小中体連加盟学校名

学　校　名	郵便番号	住　所
韮崎高等学校	407-0015	韮崎市若宮町3-2-1
甲府第一高等学校	400-0007	甲府市美咲2-13-44
甲府西高等学校	400-0064	甲府市下飯田4-1-1
甲府南高等学校	400-0854	甲府市中小河原町222
甲府東高等学校	400-0805	甲府市酒折1-17-1
第一商業高等学校	400-0807	甲府市東光寺2-25-1
甲府工業高等学校	400-0026	甲府市塩部2-7-1
機山工業高等学校	400-0064	甲府市下飯田1-9-1
甲府城西高等学校	400-0064	甲府市下飯田1-9-1
巨摩高等学校	400-0306	中巨摩郡櫛形町小笠原1500-2
増穂商業高等学校	400-0502	南巨摩郡増穂町最勝寺1372
石和高等学校	406-0031	東八代郡石和町市部3
山梨園芸高等学校	406-0026	東八代郡石和町中川1400
日川高等学校	405-0025	山梨市一町田中1062
山梨高等学校	405-0018	山梨市上神内川194
都留高等学校	401-0013	大月市大月2-11-20
甲府商業高等学校	400-0845	甲府市上今井町300
山梨英和高等学校	400-0023	甲府市愛宕町112
甲府湯田高等学校	400-0864	甲府市湯田3-10-1
山梨学院大学附属高等学校	400-0805	甲府市酒折3-3-1
東海大甲府高等学校	400-0063	甲府市金竹町1-1
甲府市立東中学校	400-0807	甲府市東光寺2-8-1
甲府市立西中学校	400-0035	甲府市飯田5-13-1
甲府市立南中学校	400-0864	甲府市湯田2-21-24
甲府市立北中学校	400-0072	甲府市大和町4-35
甲府市立南西中学校	400-0041	甲府市上石田4-10-8
甲府市立北東中学校	400-0015	甲府市大手2-4-18
甲府市立城南中学校	400-0053	甲府市大里町2590-1
山梨英和中学校	400-0023	甲府市愛宕町112
竜王町立竜王中学校	400-0115	中巨摩郡竜王町篠原2030
竜王町立玉幡中学校	400-0117	中巨摩郡竜王町西八幡3190
竜王町立竜王北中学校	400-0118	中巨摩郡竜王町竜王420
敷島町立敷島中学校	400-0123	中巨摩郡敷島町島上条1263
芦安村立芦安中学校	400-0242	中巨摩郡芦安村安通350
山梨市立山梨南中学校	405-0015	山梨市下石森287
山梨市立山梨北中学校	405-0005	山梨市小原東359
勝沼町立勝沼中学校	409-1316	東山梨郡勝沼町勝沼761-1
大和村立大和中学校	409-1203	東山梨郡大和村初鹿野1643
石和町立石和中学校	406-0033	東八代郡石和町小石和716
芦川村立芦川中学校	409-3703	東八代郡芦川村中芦川835
増穂町立増穂中学校	400-0503	南巨摩郡増穂町天神中条991-1
中富町立中富中学校	409-3303	南巨摩郡中富町寺沢3250
大月市立猿橋中学校	409-0614	大月市猿橋町猿橋567
大月市立富浜中学校	409-0502	大月市富浜町鳥沢562
上野原町立巌中学校	409-0121	北都留郡上野原町四方津215

社会人リーグ登録チーム

チーム名	代表者		
	郵便番号	住所	氏名
山梨電子A	400-0042	甲府市高畑1-5-20	児玉　和也
ペガサス	409-3867	中巨摩郡昭和町清水新居154-3	西山与四郎
まんまみーあ	400-0815	甲府市国玉町1174	中沢　誠樹
FANTAS	400-0021	甲府市宮原町120 パナハイツ坂本102	杉矢　正巳
甲府ドリームクラブ	400-0028	甲府市音羽町4-は-202	藤川　信明
ウィンクラブ	400-0213	中巨摩郡白根町西野2102	芦沢　秀樹
日川クラブ	409-1302	東山梨郡勝沼町菱山911	飯塚　正之
ワイトソックス	400-0851	甲府市住吉5-12-3	田中　清美
玉穂体協	409-3815	中巨摩郡玉穂町成島2337	内藤　徹
梨大クラブA	400-0013	甲府市岩窪町421 ヴィラつつじヶ崎B101	石原　栄
ウェルネス	400-0013	甲府市岩窪町612-2	野呂瀬　秀
石和体協	400-0061	甲府市荒川1-11-5	磯野　尚
インパルス	400-0074	甲府市千塚4-5-15	橘田　博
山梨市B	405-0018	山梨市上神内川1033	奥山　武仁
峡北クラブ	400-0807	甲府市東光寺3-2-22	清水　善博
滝川鉄工所	400-0845	甲府市上今井町657-203	中山　寛章
NEC山梨	400-0053	甲府市大里町2098-11	飯島　浩
シャトレーゼ	408-0101	北巨摩郡須玉町小尾3980	井山　和教
乱打夢	400-0043	甲府市国母1-23-18	矢野　均
東電	401-0011	大月市駒橋3-5-8	二村　善則
御坂体協	406-0816	東八代郡御坂町竹居1127	永野　広司
パワーズ	406-0801	東八代郡御坂町成田930-2	中村　好伸
里垣体協	400-0807	甲府市東光寺3-3-17	新井　康友
からぶリーズ	400-0073	甲府市湯田2-16-22	木村　眞吾
TDK	400-0815	甲府市国玉町590-7	福岡　嘉夫
松下電器コンプレッサー	400-0069	甲府市中村町6-16	藤田　成男
松下電器	400-0337	中巨摩郡若草町寺部1-5	大磯　徳恭
横河電機	409-3844	中巨摩郡田富町臼井阿原1709-20	上原日出男
ブッラクスター	400-0855	甲府市中小河原1-1-22	望月みどり
敷島体協	400-0126	中巨摩郡敷島町大下条252-4	石川　昭仁
梨大クラブB	400-0416	中巨摩郡甲西町大師606	西川　啓
大国	400-0051	甲府市古上条町48-7	米倉　敏樹
ラデユール	406-0801	東八代郡御坂町成田2487	久保田一男
魚市クラブ	400-0851	甲府市住吉1-10-18	弦間　宗彦
ハニーズ	400-0075	甲府市山宮町1576	伊藤えい子
御坂MBC	406-0805	東八代郡御坂町栗合49-2	小池　静夫

チーム名	代表者		
	郵便番号	住所	氏名
ＮＴＴ山梨	400-0005	甲府市北新2-8-10	池上　健二
ファイヤースピリット	400-1504	東八代郡中道町右左口1299	渡辺　治
メドマン	400-0126	中巨摩郡敷島町大下条842	持原　和則
ウィンクラブⅡ	400-0017	甲府市屋形3-3-10 A-1	梅沢　泉
上九一色村体協	409-3711	西八代郡上九一色村梯809	河野　政則
竜王体協	400-0115	中巨摩郡竜王町篠原293-4	小倉　一雄
春日居体協	406-0013	東山梨郡春日居町寺本3	荻原　明人
アロークラブⅡ	407-0105	北巨摩郡双葉町下今井1950-10	石井　勉
ファイブシャトル	400-0048	甲府市貢川本町2-17	中沢貴三男
郵政クラブ	400-0052	甲府市上条新居町196-10	小林　傳
ＡＩＵＥＯ	406-0035	東八代郡石和町広瀬34	小澤　修
Ｋ．Ｙ．ツインズ	405-0045	山梨市大工61	丸山　孝
South Wind A	409-3115	西八代郡下部町切房木214	赤池　治雄
チリンダーテ	407-0201	北巨摩郡明野村浅尾2259-1	清水　一也
梨大クラブＣ	400-0865	甲府市太田町7-8	宮川　実三
ミスショット	400-0867	甲府市青沼3-15-1	斉藤　和仁
Ｙ・Ｋ・Ｂ・Ｃ	400-0021	甲府市宮前町7-22	島田　安夫
ヴァニライス	400-1117	中巨摩郡敷島町上菅口193	三浦　憲雄
South Wind B	409-3115	西八代郡下部町切房木214	赤池　治雄
ウィングザスカイ	400-0032	甲府市中央2-1-24	禾生　文子
御坂体協２	406-0813	東八代郡御坂町上黒駒4726	弦間　正明
からぶリーズⅡ	400-0043	甲府市国母1-22-4	和田ひろみ
ＭＵＲＯＩ	400-0331	中巨摩郡若草町下今井30-2	保坂　哲也
ニスカ	408-0113	北巨摩郡須玉町大蔵652	皆川　義彦
御坂ＭＢＣⅡ	406-0805	東八代郡御坂町栗合49-2	小池　静夫
山梨中央銀行	400-0073	甲府市湯村3-19-39	村田　俊也
富士通アイネットワークシステム	400-0226	中巨摩郡白根町有野3520	千野　秀人
ライズ	400-0049	甲府市富竹3-2-32	五味　幸仁
リバティーハート	409-3841	中巨摩郡田富町布施2116	三井　勝彦
ラ・ポンバ	400-0116	中巨摩郡竜王町玉川194-2 メゾンドールA205	金丸　祐二
梨大クラブＤ	409-3864	中巨摩郡昭和町押越709-2	坂本　一成
イノアック甲府	400-0066	甲府市新田町18-12	天野　英樹
プライト	400-0013	甲府市岩窪町421　B105	清水　洋男
ＫＢＣ	405-0065	東八代郡一宮町新巻2	中村　久也
ＨＥＬＬＯクラブ	400-0094	甲府市富竹3-2-23	土橋　長男

第５章

山梨県バドミントン協会規約

山梨県バドミントン協会事務局規定

山梨県バドミントン協会専門部に関する規定

山梨県バドミントン協会表彰規定

山梨県バドミントン協会規約

第一章　名称及び事務所

第１条　本会は、山梨県バドミントン協会と称し、事務所を甲府ラケットショップ内におく。

第二章　目的及び事業

第２条　本会は、山梨県におけるバドミントン競技の普及発展を図るとともに、県民の体力向上、スポーツ精神を育成することを目的とする。

第３条　本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

１　バドミントン競技会の開催及び後援。

２　バドミントン競技の普及発展と技術向上に関する指導研究。

３　県及び山梨県体育協会の実施する諸施策に協力する。

４　その他、目的達成に必要な事業。

第三章　組　　織

第４条　本会は、本会の趣旨に賛同する山梨県内に在住及び勤務するものをもって組織する。

第５条　本会は、山梨県におけるバドミントン競技を統括代表する協会として、財団法人日本バドミントン協会、財団法人山梨県体育協会に加入する。

第四章　役　　員

第６条　本会に、次の役員をおく

会　長	１　名
副会長	若干名
理　事	若干名（理事長１名、副理事長若干名、常任理事若干名）
監　事	２　名

前項に定める者のほか、顧問及び参与をおくことができる

第７条　１　会長及び副会長は、総会で選出する。

２　理事長及び副理事長は、理事の互選による。

３　理事は、次の団体より選出されたものとする。ほかに会長はバドミントン競技経験者の中から若干名の理事を指名することができる。

高体連　小中体連　社会人リーグ　家庭婦人　スポーツ指導員　郡市

ただし、各団体から選出する理事は若干名とする。

４　常任理事は、理事の互選による。

５　監事は、総会で選出する。

第８条　１　会長は本会を代表し会務を総理する。副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

２　理事長は、理事会の議決に基づき日常業務を処理する。副理事長は理事長を

補佐し、理事長事故あるときはその職務を代理する。

3　理事は、理事会を組織し、本会の業務を審議し決定する。

4　常任理事は、常任理事会を組織し、本会の業務を執行する。

5　監事は、本会の会計を監査する。

第９条　役員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。役員の任期が満了しても、後任が就任するまではその職務を行うものとする。

第10条　顧問及び参与は理事会の承認を得て会長が委嘱する。顧問は会長の諮問に応じ参与は本会の会務に参画する。

第五章　会　　議

第11条　本会の総会は、各団体に登録されたチームの代表者１名及び本会役員をもって構成する。総会は毎年４月に開催し、決算の承認、規約の変更、事業計画、予算その他重要事項を審議決定する。必要に応じて臨時総会を開くことができる。ただし、理事会をもって総会に変えることができる。

第12条　理事会は、重要事項を審議し決定する。

常任理事会は、事業の執行にあたる。

第13条　総会及び理事会は、会長が召集し、常任理事会は，会長の承認を得て理事長が招集する。会議はすべて招集者が議長となり、議事は出席者の過半数で決定し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

第六章　専 門 部 会

第14条　本会の事業を遂行するため，必要あるときは専門部会を設けることができる。専門部会に関する規程は別に定める。

第七章　事　務　局

第15条　本会の事務を処理するため、事務局をおく。

事務局に関する規程は別に定める。

第八章　会　　計

第16条　本会の経費は、登録料、事業収入、寄付金、その他の収入をもってまかなう。

第17条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終る。

附　　則

第１条　この規約の施行に関し必要な事項は、理事会の承認を得て会長が別に定める。

第２条　この規約は、昭和23年３月30日より施行する。

第３条　この規約は、昭和59年４月28日より施行する。

第４条　この規約は、平成２年５月17日より施行する。

山梨県バドミントン協会事務局規程

第１条　山梨県バドミントン協会規約第１５条により、事務局に関する規程を定める。
第２条　事務局は、次の事項を掌る。
　１　会印、職印の保管に関すること。
　２　文書の処理に関すること。
　３　会計、経理に関すること。
　４　その他事務局運営に関すること。
第３条　事務局に、次の局員をおく。
　事務局長　１名　　事務局次長　１名　　事務局員　若干名
第４条　事務局長、事務局次長、事務局員の任免は、会長が行う。
第５条　事務局長は、事務局を統轄し、局員を指揮監督する。
第６条　事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長事故あるときはその職務を代行する。
第７条　事務局員は、上司の命を受け本会の事務を処理する。
第８条　庶務経理、その他事務処理上必要な規程は、会長が別に定める。

附　　則
第１条　この規約は、昭和23年３月30日より施行する。
第２条　この規約は、昭和59年４月28日より施行する。

山梨県バドミントン協会専門部に関する規程

第１条　山梨県バドミントン協会規約第１４条に基づき、専門部として競技委員会、審判委員会、普及委員会、強化委員会を設ける。
第２条　各委員会に委員長１名、副委員長若干名、委員若干名をおく。
　各役員は会長が委嘱する。
第３条　各委員会は、次の事業を行う。
競技委員会
　１　競技日程の編成、実施要項の作成に関すること。
　２　競技会の運営に関すること。
審判委員会
　１　審判員養成講習会の企画、講師の選定に関すること。
　２　審判技術の向上、研究に関すること。
　３　審判員の派遣に関すること。
普及委員会
　１　バドミントン競技普及発展の総合的企画に関すること。
　２　バドミントン教室の実施、講師の選定、派遣に関すること。

3　山梨県社会人リーグ戦の企画運営に関すること。
4　家庭婦人大会の企画運営に関すること。
5　その他普及発展に関すること。

強化委員会

1　選手強化の総合的企画に関すること。
2　強化選手の選定に関すること。
3　強化合宿、練習の企画運営に関すること。
4　指導者養成に関すること。

第４条　委員長は、委員会を代表しその任務の遂行について責任を負う。副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはその職務を代行する。

第５条　役員の任期は山梨県バドミントン協会規約に準ずる。

第６条　委員会は、会の目的遂行に必要な事項を審議決定する。

第７条　委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

附　　則

第１条　この規約は、昭和59年４月28日より施行する。

第２条　この規約は、平成２年６月　日より施行する。

山梨県バドミントン協会表彰規程

第１条　この規程は、山梨県内のバドミントン競技の普及発展に貢献した実績を表彰することを目的とする。

第２条　山梨県内に現存する団体並びに個人で、次の各号の一つに該当するものは、この規程によって表彰する。

(1)　山梨県バドミントン競技の普及発展のため、本協会役員として10年以上尽すいし、年齢45才をこえる者でその功績が顕著である者。
(2)　山梨県内にあってバドミントン競技の指導並びに実践に精励すること10年以上にわたり、成績が特に優秀である者。
(3)　全国大会において、３位以内に入賞した団体並びに個人。
(4)　その他、前号に準ずると認められる者。

第３条　表彰方法は、表彰状並びに記念品を授与して行う。

第４条　選考方法は、表彰候補者を各団体及び本会があらかじめ推薦し、常任理事会で行う。

第５条　表彰は、毎年会長杯争奪選手権大会に行う。ただし、事情によりその期日を変更し、又は必要の都度表彰することができる。

附　　則

第１条　この規約は、昭和59年４月28日より施行する。

あ　と　が　き

山梨県バドミントン協会が創立されてから50年が経過し、平成９年度総会で記念事業が承認されました。30周年、40周年と記念式典および記念誌の発行を行ってきました。総会で承認された後、常任理事を中心として協会役員は、何回もの会議を重ね、記念事業の一環として記念誌の発行を決定しました。

創立から50年の間には各種大会、国際試合、また最近では昭和61年の国民体育大会、そして平成８年の全国高等学校総合体育大会と多くの事業が実施されました。創立３年ほどで全国レベルに達した様子、一般男子の国体三連覇、高校生の活躍した様子、第41回国民体育大会での大会運営・選手強化・成績については財団法人山梨県体育協会発行の「山梨県体育史　第一巻」及び「第二巻」に掲載されており、また山梨日日新聞に詳細に報道されてきました。しかし、バドミントン愛好者の多くが、この山梨県体育協会発行の「山梨県体育史」を読んではいないだろうと思われたので、「山梨県バドミントン協会のあゆみ」として掲載する事にしました。山梨県バドミントン協会が歩んできた道は、この記事を読んでいただけば御理解いただけることと思われます。したがって、大会の成績（第３章　栄光の記録）は、全国・関東大会上位入賞者、山梨県総合選手権大会（昭和38年度から実施)、社会人リーグ戦（平成元年度から実施)、山梨県高等学校総合体育大会及び関東高等学校選手権大会出場校一覧を掲載しました。

そこで、今回の記念誌の発行においては、特に創立当時から現在までの何人かの思い出を「寄稿文」として掲載する事にしました。なかには何十年も前の過去を思い出して大変な御苦労された人もおり、大変御迷惑をおかけしたことと思います。心から御礼申し上げます。写真等も用いて記念誌を編集することも考えていましたが、集めた資料および原稿を単に羅列した程度のもので、50周年の記念誌としては不備な点が多くなってしまいました。つぎの機会に発行される記念誌には、もっと多くの記録等を掲載していただきたいと思います。

おわりに協会創立以来、本協会の発展のためにご尽力いただきました歴代の会長をはじめ多くの役員各位に対し、重ねて深く敬意を表するとともに、発刊にあたり貴重資料をお寄せいただいた方々に、感謝申し上げます。

（文責　久津川　孝）

山梨県バドミントン協会50周年記念誌
編集委員長　　松野　民雄
編 集 委 員　　秋山　真男　　窪田　恵三　　久津川　孝　　白倉　一民

年　　輪

平成10年３月７日　発行

編　集　　山梨県バドミントン協会
発　行　　山梨県甲府市丸の内３丁目16−13
　　甲府ラケットショップ内
　　TEL 0552−32−１３２６

印　刷　　東　甲　社
　　甲府市新田町９−12



さらに
パワースマッシュ。

"あのCAB20に、10mm長いロングラケット登場"

トップ選手の厚い信頼に支えられ、世界のビッグトーナメントで数々の優勝をもたらすなど、一時代を築いたCAB20。そのパワーを継承し、さらに10mm長い長尺仕様のCAB20ロングがついに登場しました。CAB20ロングは、スウィートスポットの拡大、独自のスウィングバランス設計、高弾性カーボンの採用など、細部にわたって高機能を追求。スマッシュのキレと威力を高め、一段と攻撃力がアップしました。まさに、ロングラケットの決定版です。

新製品 大学・一般主体の中・上級者向

Carbonex 20 LONG

¥17,000 メーカー希望小売価格（消費税は含まれておりません）

カーボネックス20ロング ■フレーム・フルラケットケース付■素材／高弾性カーボンフレーム・高弾性カーボンシャフト ■サイズ／3U4・5，2U3・4・5■カラー／ブラック

ヨネックス株式会社 お問合せ先
東 京／TEL. 03-3839-7142　仙台／TEL. 022-232-1221(代)
大 阪／TEL. 06-767-5464　福岡／TEL. 092-472-8751(代)
名古屋／TEL. 052-323-5541(代)
インターネットホームページ http://www.yonex.co.jp

YONEX®